

目 次

| | |
|-------------------------|------|
| 一般入試日程の概要 | |
| アドミッション・ポリシー（入学者受入方針） | 1 |
| 入学定員及び募集人員 | 5 |
| 実施方式及び併願について | 7 |
| 入学者選抜方法等 | 7 |
| 出願資格 | 7 |
| 個別の入学資格審査について | 8 |
| 受験する教科・科目の確認 | 9 |
| 出願手続 | 9 |
| (1) 出願期間 | 9 |
| (2) 出願書類送付先 | 9 |
| (3) 出願書類 | 10 |
| (4) 出願上の注意事項 | 16 |
| 受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談 | 17 |
| 受験票の発送予定 | 18 |
| 入学者選抜実施教科・科目等 | 20 |
| (1) 教育学部 | 22 |
| 実技検査内容 | 24 |
| (2) 経済学部 | 26 |
| (3) システム工学部 | 28 |
| 総合問題の出題内容 | 30 |
| (4) 観光学部 | 32 |
| 個別学力検査等の試験場及び試験日時 | 34 |
| 受験上の注意 | 35 |
| 受験者の宿泊について | 36 |
| 合格者発表 | 37 |
| 入学手続 | 38 |
| 欠員補充 | 40 |
| 個人情報の取扱い | 41 |
| 入試情報の開示 | 41 |
| 入試成績等の本人開示 | 42 |
| 学部の紹介 | 44 |
| 学生生活 | 49 |
| 大学入試センター試験受験教科・科目確認表 | 前期日程 |
| 大学入試センター試験受験教科・科目確認表 | 後期日程 |
| 入学願書等記入上の注意 | 56 |

添付書類（所定様式・封筒等）

※下記添付書類は、試験日程により所定様式・封筒が異なります。必ず確認の上、所定封筒に入れ提出してください。

出願書類等

| |
|------|
| 前期日程 |
|------|

出願書類等

| |
|------|
| 後期日程 |
|------|

一般入試に関する問合せ先（裏表紙裏面）

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 大学の教育目的

和歌山大学は、和歌山、南大阪地域の学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成します。

2. 大学のアドミッション・ポリシー

- (1) 学問への探究心にあふれ、課題解決のため意欲的に取り組むことのできる人
- (2) 明確な目的意識をもつ人
- (3) 新しいことに積極的に挑戦する意欲をもつ人

教育学部

1. 学部の教育目的

本学部は、人間と教育に関する深い理解と、科学・芸術・文化に関する専門的知識にもとづき、教育実践力を高めることで、次代を担う子どもたちの成長と発達を支援していくことのできる高度な資質・能力をもった教員の養成を目的とします。

この目的の実現をはかるために、初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コースの3つのコースをおきます。こうすることでキャリアパスを明確にし、自分のめざすべき進路に応じた専門教育を受けることができるようにしています。

初等教育コースでは、児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

中等教育コースでは、教科（分野）の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

特別支援教育コースでは、学習に困難のある子どもや、発達が気になる子ども、障害のある子どもなど、特別なニーズを有する子どもの教育について、専門的知識や理論を身につけながら実践的な指導能力を養い、両者のバランスに優れた教員の養成を目的とします。最新の理論の修得に加えて、在学中から実際に子どもと接する機会を多く持ち、体験を通して学ぶことを重視します。

2. アドミッション・ポリシー

上記のような教育目的を達成するために、次のような意欲と資質をもった人を求めています。

全体に共通するものとして

- (1) 教員になりたいという熱意を持ち、子どもと共に学んでいく姿勢を持てる人
- (2) 子どもの様々な特性を理解し、周囲の人々と協力して支援していくことができる人

初等教育コース

- (1) 児童の発達や教科のつながりを広く学んで、小学校の教員をめざす人
- (2) 幼児教育を視野に入れつつ、小学校教育を考えたい人
- (3) 小学校教育と中学校教育の連携・接続を意識しつつ、小学校教育を考えたい人

中等教育コース

- (1) 教科の専門性を深め、中学校・高等学校の教員をめざす人
- (2) 中等教育段階の生徒の発達と学習を意識しつつ、中学校・高等学校教育を考えたい人

特別支援教育コース

- (1) 特別支援学校教員をめざす人
- (2) 幼稚園・小学校・中学校・高等学校において教育上特別なニーズを有する幼児・児童・生徒に対しても適切な支援を行える教員をめざす人
- (3) 教育学、心理学、臨床学、医学、福祉学など、関連諸科学を横断し幅広い知識・技能を修得したい人

経済学部

1. 学部の教育目的

本学部は、経済学・経営学・会計学・情報学・法学など、多様化・複雑化する経済社会の問題発見・解決に不可欠な社会科学の諸分野の教員を揃え、次のような人材の育成を目的とします。

- (1) 基礎学力（幅広い教養と論理的思考力）と広い視野（社会科学の諸分野の専門知識と実務能力）を礎として、多様で変化の激しい予測困難な社会を体系的に理解できる人材
- (2) 個人の自立と他者との協働を図りながら、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止め、その解決に向けて的確に判断し創造的・実践的・主体的に行動できる人材

具体的には、金融業・サービス業・製造業などの各種産業や、公務・会計・税務・法務・商業教育・調査研究等の分野において、国際社会及び地域社会で活躍できる人材の育成を目指します。

2. アドミッション・ポリシー

上記のような教育目的に基づき、次のような人を求めています。

- (1) 経済学・経営学・法学等を学ぶ上で必要となる幅広い基礎学力を有する人。
- (2) 社会・経済における諸問題に関心を持ち、卒業後、専門知識を活かして関連分野で能力を発揮したい人。
- (3) 主体的に学修し、新しいことに積極的に挑戦する意欲を有する人。
- (4) コミュニケーション能力を持ち、協調性があり活発に議論ができ、リーダーシップを有する人。

また、特にスポーツ推薦入試では次のような人を求めます。

- (5) スポーツマネジメントに関心を持ち、関連する経営学・経済学などの専門領域の学修に積極的に取り組める人。
- (6) スポーツの実践・普及・振興に関心を有する人。

3. 入学者選抜の基本方針

本学部では、一般入試（前期日程・後期日程）のほか、推薦入試・スポーツ推薦入試・社会人特別入試・帰国子女特別入試・私費外国人留学生特別入試及び第3年次編入学入試など、複数の入学者選抜方法を採用することで、多様な人材の受け入れを目指しています。

- (1) 一般入試（前期日程）では、大学入試センター試験で5～6教科の基礎的・総合的学力をみるとともに、個別学力検査では英語と数学を実施します。
- (2) 一般入試（後期日程）では、大学入試センター試験で外国語を含む3～4科目の基礎的な学力をみるとともに、個別学力検査（小論文）の配点を大きくとることで、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）に秀でた人を求めます。
- (3) 推薦入試では、高等学校において優秀な学業成績を収め、かつ、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を有するとともに、高いコミュニケーション能力を有する人を求めます。
- (4) スポーツ推薦入試では、高等学校において優秀なスポーツ成績と良好な学業成績を収め、かつ、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を有するとともに、高いコミュニケーション能力を有する人を求めます。
- (5) 以上のほか、社会人特別入試・帰国子女特別入試・私費外国人留学生特別入試及び第3年次編入学入試を行い、多様な人材の受け入れを目指します。

システム工学部

1. 学部の教育目的

工学ではなく「システム工学」という学部名称には、教育対象の複合性・総合性が意識されています。したがって本学部の教育目的としてまず第一に、

- (1) 視野を広く持ち、技術を体系的に理解できる能力を養う

ことをあげなければなりません。

しかし、初めて高等教育を受ける受験生に対して、総合力だけに重点をおくこともできません。よって、

- (2) 専門領域に応じた基礎学力・基礎技術を確実に修得させる

こともまた必要です。すなわち、本学部では専門性にある程度の幅をもたせて科学技術の教育を行うことを目的とします。

「システム」にはまた応用性を重視するという意味合いも含まれています。

本学部では実学教育を旨とし、

- (3) 産業・社会のニーズに即応できる実践力を養うこと

も目的として掲げています。

これには、知識と技術を実際の製造物に応用できる能力とともに、システムを開発・運用するプロセスに必要なコミュニケーション能力を養うことも含まれます。

2. アドミッション・ポリシー

前節で設定した教育目的を実現するため、本学部の受験生に対し、下記のようなアドミッション・ポリシーを掲げています。高等学校等で履修すべき具体的な教科・科目については、入学者選抜実施教科・科目等を参考にしてください。

- (1) 工学系大学教育にたえるため、理数系の基礎知識と問題解決能力を求める。
- (2) システム工学特有の複合領域の大学教育に適合するよう、論理的思考力と状況判断力、さらに高い倫理感を求める。
- (3) 今日の技術者・研究者に必要な英語力とコミュニケーション力の素養を求める。

1. 学部の教育目的

21世紀は「観光の時代」。観光は、世界のあらゆる国や地域で最も有望な成長分野として注目されています。日本においても、観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造及び観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性、さらにはグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を有する観光人材の輩出がますます期待されています。

そこで本学部は、今日の観光を支えるにふさわしい専門性、幅広い教養、日本文化に対する理解と知識、ITスキル、そして高度な外国語運用能力を兼ね備えた人材の育成を目的とします。観光学の学問体系の全体像として「観光経営」「地域再生」「観光文化」の3つの基本領域を総合的に学ぶとともに、いずれかの領域に専門性を発揮できるようになること、そうした専門性を実践的な諸課題に応用できる包括的対応力（ジェネリックスキル）を獲得することが目標となります。さらに、異文化コミュニケーション力を高め、グローバル化した社会状況への高度な対応力を涵養することや、地域の諸課題に取り組む実践型教育を通して、オンサイトでの創造的実践力を身につけることを目指します。

2. アドミッション・ポリシー

- (1) 学問への探求心にあふれ、課題解決のために論理的に思考できる人
- (2) 明確な目的意識を持ち、新しいことに積極的に挑戦できる人
- (3) 高いコミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮できる人
- (4) 観光に関連する組織体の経営問題に関心がある人
- (5) 観光を通じた地域再生の問題に関心がある人
- (6) 国際的な交流や、国内外の様々な地域の文化に関心がある人
- (7) インターンシップやフィールドワーク調査などの学外実習に意欲的に取り組むことのできる人
- (8) 大学で修得した知識を活用して社会で活躍したい人

入学定員及び募集人員

| 学部 | 学科・課程 | 入学定員 | 募集人員 | | | | | | | | |
|---------|------------|------|----------------|---------------|----------|--------------|----------|----------|---------|------|--------------|
| | | | 一般入試 | | 特別入試 | | | | | | |
| | | | 前期日程 | 後期日程 | 推薦入試(一般) | 推薦入試(地域)[紀南] | スポーツ推薦入試 | 帰国子女特別入試 | 社会人特別入試 | AO入試 | 私費外国人留学生特別入試 |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 165 | 100 (備考1参照) | 35 (備考1参照) | 20 | 10 | — | — | — | — | — |
| | 小計 | 165 | 100 | 35 | 20 | 10 | — | — | — | — | — |
| 経済学部 | 経済学科 | 300 | 180 | 80 | 30 | — | 4 | 3 | 3 | — | 若干名 |
| | 小計 | 300 | 180 | 80 | 30 | — | 4 | 3 | 3 | — | — |
| システム工学部 | システム工学科 | 305 | 170 | 100 | 35 | — | — | — | — | — | 若干名 |
| | 小計 | 305 | 170 | 100 | 35 | — | — | — | — | — | — |
| 観光学部 | 観光学科 | 120 | 55 | 35 | 25 | — | — | — | 2 | 3 | 若干名 |
| | 小計 | 120 | 55 | 35 | 25 | — | — | — | 2 | 3 | — |
| 合計 | | 890 | 505 | 250 | 110 | 10 | 4 | 3 | 5 | 3 | — |

注1 特別入試の推薦入試、スポーツ推薦入試、帰国子女特別入試、社会人特別入試、AO入試の合格者が、募集人員に満たない場合には、その差を前期日程の募集人員に加えます。

注2 私費外国人留学生特別入試は、入学定員外として募集します。

〔備考〕

- 1 教育学部の学校教育教員養成課程の一般入試は、次のとおり募集します。

| 課程 | 系 | 専攻 | 募集人員 | |
|------------|-----|--------|------|------|
| | | | 前期日程 | 後期日程 |
| 学校教育教員養成課程 | 文科系 | | 45 | 25 |
| | 理科系 | | 35 | 10 |
| | 実技系 | 音楽又は美術 | 10 | |
| | | 保健体育 | 10 | |
| 計 | | | 100 | 35 |

(注)① 文科系又は理科系を受験し、合格した人は、入学後に各コース(初等教育コース、中等教育コース、特別支援教育コース)への所属を決定します。

② 実技系を受験し、合格した人は、入学後に各コース(初等教育コース、中等教育コース)への所属を決定します。

2 教育学部の一般入試の募集区分と入学後のコース等の対応は下表のとおりです。

| 募集区分 | | 入学後のコース等 | | |
|------------|-----|-----------|---|------------------|
| 学校教育教員養成課程 | 文科系 | 初等教育コース | 教育学、心理学、国語科教育、英語教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育 | |
| | | 中等教育コース | 教育学、心理学、国語科教育、英語科教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育 | |
| | | 特別支援教育コース | 特別支援教育学 | |
| | 理科系 | 初等教育コース | 教育学、心理学、算数科教育、理科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育 | |
| | | 中等教育コース | 教育学、心理学、数学科教育、科学教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育 | |
| | | 特別支援教育コース | 特別支援教育学 | |
| | 実技系 | 音楽又は美術 | 初等教育コース | 音楽科教育 図画工作科教育 |
| | | | 中等教育コース | 音楽科教育 美術科教育 |
| | | 保健体育 | 初等教育コース | 体育科教育 |
| 中等教育コース | | | 保健体育科教育 | |

(注) なお上記の欄は変更されることがあります。

実施方式及び併願について

本学の一般入試は、分離分割方式による「前期日程」と「後期日程」で実施します。

本学の前期日程に出願する場合は、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の前期日程との併願はできません。

本学の後期日程に出願する場合は、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の後期日程との併願はできません。

本学内の学部間又は同一学部内における前期日程と後期日程への出願、いわゆる学内併願は可能です。その場合は、前期日程と後期日程のそれぞれに出願書類を提出し、入学検定料を納めてください。

※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部は、公立大学協会ホームページ（<http://www.kodaikyo.org>）を参照してください。

入学者選抜方法等

入学者選抜方法は、平成 29 年度大学入試センター試験の成績と本学が実施する個別学力検査等の結果及び調査書を総合して行います。

大学入試センター試験の利用教科・科目及び個別学力検査等の実施教科・科目等並びにこれらの配点については、各学部の【入学者選抜実施教科・科目等】を参照してください。

出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ各学部・学科等が指定する平成 29 年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目（20～33ページ参照）を受験した者。

1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成 29 年 3 月までに卒業見込みの者。
2. 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 29 年 3 月までに修了見込みの者。
3. 学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 150 条第 1 号から第 5 号の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成 29 年 3 月 31 日までにこれらに該当する見込みの者。これらの者は以下のとおり。
 - ① 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの。
 - ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者。
 - ③ 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者。
 - ④ 文部科学大臣の指定したもの（昭和 23 年文部省告示第 47 号）。
 - ⑤ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）及び平成 29 年 3 月 31 日までに合格見込みの者で、平成 29 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。
4. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18 歳に達した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。

個別の入学資格審査について

出願資格の 4 により一般入試に出願しようとする者は、下記を参照の上申請してください。

(申請方法・受付期間)

※事前に提出書類等の指示を行いますので、必ず(各申請書類等受付期間)開始前に下記照会先に
問い合わせてください。

申請書類等の提出方法は、持参・郵送により受付します。

窓口受付時間は、9時から17時(12時から13時を除く)までとします。

郵送の場合は、封筒表に「一般入試 入学資格審査提出書類在中」と朱書きし、書留速達郵便にて受付期間内までに和歌山大学入試課に必着するよう郵送してください。

なお、各受付期間最終日17時を超えて到着のものは受理しません。

※申請書類等受理後、別途必要書類を求める場合があります。

(申請書類等受付期間)

第1回 平成28年8月22日(月)～8月26日(金)【17時までに入試課必着】

※大学入試センター試験に出願する場合は、第1回審査で認定を受ける必要があります。

第2回 平成29年1月16日(月)～1月18日(水)【17時までに入試課必着】

(照会先・申請書類等提出先)

〒640-8510 和歌山市栄谷 930

和歌山大学入試課 TEL 073-457-7116 (直通)

(審査結果)

審査の結果、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者に対し、「和歌山大学入学資格認定書」を申請者宛に書留速達郵便にて郵送します。

受験する教科・科目の確認

- ① 出願の際には、20～33ページの「入学者選抜実施教科・科目等」により、各学部が指定する平成29年度大学入試センター試験の教科・科目を受験していることを確認してください。
- ② 確認の際には、52～55ページの「大学入試センター試験受験教科・科目確認表」を使用してください。前期日程と後期日程がありますので出願日程を確認した上で行ってください。
- ③ 各学部・学科等が指定する平成29年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目（20～33ページ参照）を受験していなければ、出願資格を満たしていないことになり出願できません。出願受付後に、志望する学部・学科等が指定した平成29年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目の不足等による出願無資格者であることが判明した場合は、個別学力検査等の受験はできません。この場合、検定料の一部を返還することとなります。本学は、出願期間終了後に大学入試センターからの提供データに基づいてのみ、この確認を行います。出願資格を満たしていないことが判明次第、本人へ通知します。なお、本学は、過年度の大学入試センター試験の成績は利用しません。
- ④ 各学部・学科等が指定する個別学力検査等の教科・科目等の一つでも受験していない者、出願時に届け出た個別学力検査科目と異なる科目を受験した者は、当該学部・学科等の合格者選考の対象となりませんので注意してください。

出願手続

出願者は、出願書類等を取り揃え、本要項添付所定封筒を用い、下記出願書類提出先へ書留速達郵便で郵送してください。また、前期日程と後期日程の両方とも和歌山大学に出願する者は、それぞれ試験日程別に出願書類等を取り揃え、個々に郵送してください。

出願書類到着の照会には応じません。

(1) 出願期間

平成29年1月23日（月）～2月1日（水）17時まで必着

出願書類の受付は、郵送によるもののみとし、直接持参しても受理しません。

平成29年2月1日（水）17時までに和歌山大学入試課に必着するように郵便事情を十分考慮し、余裕をもって早めに出願してください。平成29年2月1日（水）17時を超えて到着したものは受理しません。

ただし、平成29年1月31日（火）以前の発信局（日本国内）消印のある書留速達郵便で、平成29年2月2日（木）12時（正午）までに和歌山大学入試課に到着したものに限り、例外的に受理します。

(2) 出願書類送付先

〒640-8510 和歌山市栄谷 930 和歌山大学 入試課 (試験日程別本要項添付所定封筒による)

(3) 出願書類

本要項添付の所定様式は、前期日程用と後期日程用の2種類があります。

入学願書等に記入、「平成 29 センター試験成績請求票」を貼付する際は、前期日程と後期日程のいずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。

出願書類及び入学願書在中封筒に記入した志望する学部・学科等が全て同一学部・学科等であるかを必ず確認し送付すること。

| | |
|--|---|
| <p>1. 入学願書 2. 電算処理票 3. 平成 29 センター試験成績請求票 (出願者が用意) 4. 受験票 5. 写真票</p> <p>(上記は 1 枚の用紙となっています。切り離さずに提出してください。)</p> | <p>本要項添付の所定様式に記入してください。記入については、「入学願書等記入上の注意」(56～63ページ)を参照してください。</p> <p><u>前期日程</u>用と<u>後期日程</u>用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。</p> <p><u>入学願書・電算処理票・受験票・写真票は 1 枚の用紙となっています。切り離さずに提出してください。</u></p> <p>1. 入学願書 記入については、「入学願書等記入上の注意」を参照してください。 連絡先については、出願書類に関する問合せを行う場合があるため、早急に連絡がとれる連絡先を記入し、携帯電話番号も記入してください。</p> <p>2. 電算処理票 記入については、「入学願書等記入上の注意」を参照してください。</p> <p>3. 平成 29 センター試験成績請求票 (「<u>前</u>国公立前期日程用」又は「<u>後</u>国公立後期日程用」) <u>電算処理票の「平成 29 センター試験成績請求票国公立(試験日程別)貼付欄」に、各自が出願する試験日程の「<u>前</u>国公立前期日程用」又は「<u>後</u>国公立後期日程用」のいずれかを糊で剥がれないように貼付してください。再発行を受けた者は、再発行後のものを貼付してください。</u> <u>必ず、「国公立」の成績請求票であるか確認し貼付してください。</u></p> <p>4. 受験票、5. 写真票 記入については、「入学願書等記入上の注意」を参照してください。 出願前 3 か月以内に撮影した同一の顔写真(縦 4 c m × 横 3 c m、正面向き、無帽、上半身、無背景の顔写真)を、受験票・写真票の所定欄に貼付してください。 写真の裏面には、出願する試験日程(前期日程又は後期日程)・学部(教育学部は課程・系・専攻(専攻とは実技系の「音楽又は美術」又は「保健体育」。以下同じ)・氏名を記入してから糊で剥がれないように貼付してください。</p> |
|--|---|

6. 入学検定料

17,000円

(入学検定料の納入方法)

金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)又はコンビニエンスストア(日本国内の店舗のみ)のいずれかの方法により納入してください。

1. 金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)による納入方法

① 本要項添付の所定様式です。

「平成29年度入学検定料の納入上の注意(前期日程用)」又は「平成29年度入学検定料の納入上の注意(後期日程用)」の振込依頼書等記入要領に従い必要事項を記入し、「C票 振込金受付証明書」、「B票 振込金領収書」、「A票 振込依頼書」を切り離さずに「電信扱」が利用できる金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)から振り込みしてください。振込手数料は志願者負担となります。

注1. 通常、金融機関の窓口営業時間は、15時までです。また、土日・祝日は休業となります。

注2. ATM・スマートフォン・携帯電話・PC等からは振り込まないでください。

② 振り込み後は、「C票 振込金受付証明書」、「B票 振込金領収書」を受け取ってください。C票、B票に金融機関収納印が押印されているかを必ず確認してください。

C票は入学願書所定欄に貼付する必要があります。

B票は領収書となりますので大切に保管してください。

2. コンビニエンスストア(日本国内の店舗のみ)による納入方法

① 事前にWebでの申込みが必要です。払込み方法等の詳細は、必ず下記ホームページで確認してください。

<https://e-shiharai.net/>

QRコード



② 下記の払込み期間中に払い込みください。

払込期間：

平成29年1月1日(日)0:00から2月1日(水)15:00まで

③ 払込み後は、「入学検定料・選考料取扱明細書」を必ず受け取ってください。「収納証明書」部分は入学願書所定欄に貼付する必要があります。

3. 検定料返還について

出願を受理した後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても振り込み済の検定料は返還しません。ただし、次の場合は、平成29年3月3日までに返還請求を行ってください。

(ア) 検定料の全額返還請求ができる者

- ・ 検定料振り込み後、出願書類を提出しなかった者又は出願が受理されなかった者。
- ・ 検定料を誤って二重に振り込みした者。

(イ) 検定料の一部(13,000円)返還請求ができる者

- ・ 出願受理後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者。

| | |
|---|---|
| <p>7. C票 振込金受付証明書 又は 収納証明書 (納入方法により 異なります。)</p> | <p>(金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)により納入した場合) 本要項添付の所定様式です。 前期日程用と後期日程用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。 金融機関で受領した、「C票 振込金受付証明書」の取扱金融機関収納印を確認し、入学願書の所定欄に糊で剥がれないように貼付してください。取扱金融機関収納印のないものは無効のため、必ず確認してください。取扱金融機関収納印が押印されていないC票の場合は出願を受理しません。</p> <p>(コンビニエンスストアにより納入した場合) 払込み後に交付される「入学検定料・選考料取扱明細書」の「収納証明書」を入学願書の所定欄に糊で剥がれないように貼付してください。</p> |
| <p>8. 調査書等</p> | <p>(ア) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成29年3月までに卒業見込みの者。 (イ) 特別支援学校高等部を卒業した者及び平成29年3月までに卒業見込みの者。 上記(ア)(イ)のいずれかに該当する者は、出身学校長が、文部科学省の定めた様式により作成し、<u>厳封された調査書</u>を提出してください。 指導要録の保存期間が経過した場合、廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合には、以下のとおり取り扱います。 (1) 「卒業証明書」及び「成績証明書又は単位修得証明書」を提出してください。 (2) 上記のうち、「成績証明書又は単位修得証明書」を提出できない場合は、「卒業証明書」及び学校長が作成した「成績証明書又は単位修得証明書を発行できない旨の理由書」を提出してください。 なお、廃校・被災その他の事情により、上記(1)(2)の書類も提出できない場合は、出身学校を所管する教育委員会、知事又は出身学校長が作成した「調査書等を発行できない旨の証明書」を提出してください。 また、改姓名等により現在の氏名と書類の氏名が異なる場合は、戸籍抄本等の公的機関が発行した書類の写を添付してください。 上記以外の者の調査書等については、15ページ『(注)「高等学校若しくは中等教育学校又は特別支援学校高等部を卒業及び卒業見込み」以外の調査書等について』のとおりとします。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>9. 一般入試出願書類受付通知(はがき)</p> | <p>本要項添付の所定様式です。</p> <p>前期日程用と後期日程用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。</p> <p>出願書類を受付した旨をお知らせするためのはがきです。</p> <p>① 郵便番号、住所、氏名、志望学部を記入してください。教育学部に出願する者のみ、志望課程・系・専攻を記入してください。</p> <p>入学願書・電算処理票・受験票・写真票に記入した志望学部、志望課程・系・専攻であるかを必ず確認してください。</p> <p>② 52 円切手 1 枚を糊で剥がれないように貼付してください。<u>複数の切手を貼付することはしないでください。そのようなスペースは用意されていません。</u>切手を重ねて貼付していた場合、出願者に届かない場合がありますのでご了承ください。</p> <p>また、はがきを提出しなかった者、切手が不足していた者、切手を貼付していなかった者、住所を記入していない者には送付しません。</p> |
| <p>10. 宛名ラベル(シール)</p> | <p>本要項添付の所定様式です。</p> <p>前期日程用と後期日程用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。</p> <p>合格通知書及び入学手続案内を送付する際の宛名ラベルです。</p> <p>郵便番号、住所、氏名を記入してください。</p> |
| <p>11. 「受験票在中」封筒(本学からの受験票送付用)(長形3号定形封筒)</p> | <p>本要項添付の所定様式です。</p> <p>前期日程用と後期日程用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。</p> <p>本学から受験票を送付する際に使用する封筒です。</p> <p>① 362 円分の切手を 2 枚以内で 糊で剥がれないように貼付してください。</p> <p><u>3 枚以上の切手を貼付することはしないでください。そのようなスペースは用意されていません。</u></p> <p><u>切手を重ねて貼付していた場合、出願者に届かない場合がありますので、必ず決められた枚数で貼付してください。</u>切手不足又は切手貼付忘れの場合は、入学願書の連絡先欄記載住所にゆうパック着払いにて送付する場合があります。</p> <p>② 郵便番号、住所、氏名、志望する学部を記入してください。入学願書・電算処理票・受験票・写真票に記入した志望学部であるかを必ず確認してください。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>12. 「入学願書在中」 封筒 (出願書類送付用) (角形2号定形封筒)</p> | <p>本要項添付の所定様式です。 前期日程用と後期日程用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。 出願者が、出願書類を本学入試課に送付する際に使用する封筒です。必ず書留速達郵便で送付してください。 ① 表面下の「出願学部のチェック欄」に1つ〇を記入してください。入学願書・電算処理票・受験票・写真票に記入した志望学部、志望課程・系(専攻)であるかを必ず確認してください。裏面の「確認欄」に、出願書類を封入する前に出願書類が整っているかを必ず確認し、〇をしてください。下部の差出人欄に出願者の郵便番号、住所、電話番号、氏名を記入してください。</p> |
|---|---|

重 要

教育学部学校教育教員養成課程実技系 音楽及び保健体育 志願者のみ

| | |
|----------------------------|---|
| <p>13. 音楽実技検査選択種目提出票</p> | <p>本要項添付の所定様式です。 「教育学部学校教育教員養成課程実技系 音楽」に出願する者のみ、記入し提出してください。 24 ページの「実技検査内容」を確認してください。</p> |
| <p>14. 楽譜の写</p> | <p>「教育学部学校教育教員養成課程実技系 音楽」に出願する者のみ提出してください。 提出が必要な楽譜の詳細は、24 ページの「実技検査内容」及び「音楽実技検査選択種目提出票」の記入上の注意により確認してください。</p> |
| <p>15. 保健体育実技検査選択種目提出票</p> | <p>本要項添付の所定様式です。 「教育学部学校教育教員養成課程実技系 保健体育」に出願する者のみ、記入し提出してください。 24 ページの「実技検査内容」を確認してください。</p> |

(注)「高等学校若しくは中等教育学校又は特別支援学校高等部を卒業及び卒業見込み」以外の調査書等について

1. 高等専門学校第3年次修了者及び修了見込みの者並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者の調査書(学校長が作成し、厳封したもの)については、文部科学省所定の様式に準じて作成したものを提出してください。
2. 高等学校卒業程度認定試験合格者及び大学入学資格検定合格者は、合格成績証明書(合格証明書とは異なります)を提出してください。
なお、試験免除科目がある場合は、免除要件に係る証明書(高等学校等の調査書又は成績証明書、各種技能検定の合格証明書)を併せて提出してください。また、合格に必要な残りの試験科目に相当する科目の単位を平成29年3月31日までに高等学校等で修得見込みの者は、文部科学省が発行する合格見込成績証明書を提出してください。
3. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者は、修了(見込)証明書及び成績証明書を提出してください。
4. 文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了した者及び修了見込みの者は、成績証明書及び修了(見込)証明書を提出してください。
5. 国際バカロレア資格を取得した者は、国際バカロレア資格證書の原本証明された写と国際バカロレア(IB)最終試験6科目の成績評価証明書を提出してください。
6. アビトゥア資格を取得した者は、アビトゥア資格取得者に授与される一般的大学入学資格証明書の原本証明された写を提出してください。
7. フランス共和国のバカロレア資格を取得した者は、バカロレア資格證書の原本証明された写とバカロレア資格試験成績証明書を提出してください。
8. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者は、和歌山大学入学資格認定書の写及び最終学校の成績証明書を提出してください。
9. 出願資格に該当する者で、12ページ及び上記に記載がない場合は、出願資格を証明できる書類及び成績証明書を提出してください。

※証明書等が英語以外の外国語で作成されている場合、日本語又は英語に翻訳し、その内容が原本と相違ないことを大使館等で証明を受けたものを添付してください。

※成績証明書で、科目名、成績評価等が符号又は略字等により表示されている場合は、その説明書を添付してください。

(4) 出願上の注意事項

(共通事項)

1. 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の推薦入試合格者で入学手続を行った者及び当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者は、個別学力検査等を受験しても合格者にはなりません。
2. 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）のAO入試に合格し、入学手続を行った者及び当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者は、個別学力検査等を受験しても合格者にはなりません。
3. 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の「前期日程」に合格し、入学手続を行った者は、「後期日程」を受験しても合格者にはなりません。
4. 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限って、合否及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。
5. 出願書類に記入する文字は黒のボールペン書き（摩擦等の温度変化で筆跡が透明化するボールペンは使用不可）とし、楷書で正確に記入してください。
6. 出願書類に不備がある場合は、受付しないことがありますので十分注意してください。
7. 記載事項を訂正する時は、誤記部分を2本線で抹消しその上に訂正印を押印してください。修正液類の使用や紙面の削り取り等はしないでください。
8. 出願書類受付後の記載事項の変更は、認めません。ただし、出願後、転居等の理由により、入学願書、宛名ラベル（合格通知書・入学手続案内送付用）、「受験票在中」封筒（本学からの受験票送付用）に記入した住所、連絡先に変更があった場合は、直ちに和歌山大学入試課まで簡易書留速達郵便で届け出てください。
9. 受付された出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。
10. 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。
11. 出願時に大学に在籍している者が、入学試験後に合格し、本学に入学する場合には、在籍している大学を退学する必要があります。ただし、受験に際しては、この限りではありません。

(教育学部を志望する場合の出願上の注意事項)

1. 教育学部志望者は、「文科系」、「理科系」、「実技系 音楽又は美術」、「実技系 保健体育」からいずれか1つを出願時に選択してください。なお、実技系の募集は前期日程のみです。
2. 「文科系」志望者のうち、個別学力検査教科名「地理歴史」を受験しようとする者は、本要項添付の電算処理票の個別学力検査等科目を選択する際に、下記の「地理歴史」選択科目群から1科目を選択してください。
3. 「理科系」志望者のうち、個別学力検査教科名「理科」を受験しようとする者は、本要項添付の電算処理票の個別学力検査等科目を選択する際に、下記の「理科」選択科目群から1科目を選択してください。

(文科系)

「地理歴史」選択科目群：「日本史」、「世界史」、「地理」からいずれか1科目

(理科系)

「理科」選択科目群：「物理」、「化学」、「生物」、「地学」からいずれか1科目

受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談

障がいのある者等、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、事前に電話連絡した上で事前相談の申請をしてください。「点字解答」又は「代筆解答」を希望する場合は、準備に相当な期間を要しますので、なるべく早く相談してください。

日常生活において、ごく普通に使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も、受験上の配慮として申請してください。

また、出願受付締切後の不慮の事故等による負傷者についても、受験上及び修学上の配慮が必要となった場合は、その時点で速やかに申し出て下さい。

申請方法

事前に電話連絡した上で、申請期限までに次の事項を記載した申請書(A4用紙に下記必要事項を明記)及び必要書類を本学入試課に提出してください。

持参・郵送により受付します。持参の場合は、原則として9時から17時(12時から13時を除く)までとします。郵送で送付する場合は、必ず「書留速達」郵便で送付してください。

申請期限

点字等受験上の特別な準備を必要とする者については、平成28年12月12日(月)までに下記申請書及び必要書類を提出してください。受験上の特別な準備を要しないその他の配慮を必要とする者は、原則として平成29年1月18日(水)までに申請してください。内容によっては対応に時間を要しますので、できるだけ早い時期に相談してください。

なお、場合により、志願者又はその立場を代弁し得る出身学校等関係者と面談を行います。

申請書の記載内容及び必要書類 ※別途必要書類を求める場合があります。

| | 内容 | 備考 |
|-------|--|--|
| 全員 | 志願者氏名(ふりがな) | 例外として、志願者が負傷等により自ら申請することができない場合は、志願者氏名に代理人氏名(父母又は出身学校担任)を併記してください。 |
| 全員 | 志願者郵便番号及び住所 | |
| 全員 | 志願者電話番号 | |
| 全員 | 出身学校名 | |
| 該当者のみ | 卒業年月日又は卒業見込年月日 | |
| 全員 | 出願予定の試験日程及び学部・学科・課程・系・実技系の場合は音楽・美術・保健体育のいずれか | 「前期日程」及び「後期日程」の別を記載してください。いずれの日程も出願予定の場合は、二つの日程を併記してください。 <u>出願を予定している試験日程ごとに出願予定学部、学科・課程・系・実技系の場合は音楽・美術・保健体育のいずれかを記載してください。学部名以外は予定で差し支えありません。</u> |
| 全員 | 医師の診断書の写又は障がい者手帳の写 | 障がい等の名称・種類・程度を客観的に証明する書類を添付してください。大学入試センター試験の受験上の配慮を申請した者は、申請時に添付した診断書の写を添付しても構いません。 |
| 該当者 | 大学入試センター試験「受験上の配慮事項決定通知書」の写 | 大学入試センター試験から「 <u>受験上の配慮事項決定通知書</u> 」の交付を受けた者は、その写を必ず添付してください。 |
| 該当者のみ | 受験上の配慮を希望する事項 | できるだけ詳細に記入してください。 |
| 該当者のみ | 修学上の配慮を希望する事項 | |
| 該当者のみ | 出身学校でとられていた配慮 | |

【参考】様式例 必ず「申請書の記載内容及び必要書類」の表を確認し整えてください。

平成 年 月 日

(必ずA4判で提出してください)

和歌山大学長 殿

(ふりがな)

志願者氏名

志願者郵便番号及び住所

志願者電話番号

身体に障がい等を有する入学志願者の事前相談について

貴大学への入学を志願するため、下記のとおり相談いたします。

記

1. 出身学校名
2. 卒業年月日又は卒業見込年月日
3. 出願予定の試験日程及び学部・学科・課程・系・実技系の場合は音楽・美術・保健体育のいずれか
4. 受験上の配慮を希望する事項
5. 修学上の配慮を希望する事項
6. 出身学校でとられていた配慮
(添付書類) 大学入試センター試験「受験上の配慮事項決定通知書」の写、医師の診断書の写又は障がい者手帳の写

連絡及び申請書提出先

〒640-8510 和歌山市栄谷 930 番地

和歌山大学入試課

TEL 073-457-7116

検討結果の通知

検討の結果、必要と判断した者のみ「受験上の配慮事項決定通知書」を送付します。

受験票の発送予定

1. 「和歌山大学入学者選抜受験票」は、2月13日(月)に発送予定です(到着予定日ではありません)。2月20日(月)までに到着しない場合は、入試課(☎ 073-457-7116)にお問い合わせください。
2. 「和歌山大学入学者選抜受験票」及び「大学入試センター試験受験票」は、個別学力検査等の受験、入学手続、入試成績の本人開示の際に必要なとなりますので、試験終了後、入学後も大切に保管してください。

入学者選抜実施教科・科目等

教科・科目名の表記

本学における大学入試センター試験の利用教科・科目名は、次のように一部略記しています。

() 内は正式名称です。

| 教科名 | グループ | 科目名 |
|-----------|------|---|
| 国 (国語) | | 国 (国語) |
| 地歴 (地理歴史) | | 世 A (世界史 A)、世 B (世界史 B)、日 A (日本史 A)、日 B (日本史 B)、地理 A、地理 B |
| 公民 | | 現社 (現代社会)、倫 (倫理)、政経 (政治・経済)、倫・政経 (倫理、政治・経済) |
| 数 (数学) | ① | 数 I (数学 I)、数 I・数 A (数学 I・数学 A) |
| | ② | 数 II (数学 II)、数 II・数 B (数学 II・数学 B)、簿 (簿記・会計)、情報 (情報関係基礎) |
| 理 (理科) | ① | 物基 (物理基礎)、化基 (化学基礎)、生基 (生物基礎)、地基 (地学基礎) |
| | ② | 物 (物理)、化 (化学)、生 (生物)、地 (地学) |
| 外 (外国語) | | 英 (英語)、独 (ドイツ語)、仏 (フランス語)、中 (中国語)、韓 (韓国語) |

本学における個別学力検査の教科・科目名は、次のように一部略記しています。

() 内は正式名称です。

| 教科名 | 科目名 |
|-----------|--|
| 国 (国語) | 国語総合 |
| 地歴 (地理歴史) | 世 B (世界史 B)、日 B (日本史 B)、地理 B |
| 数 (数学) | 数 I (数学 I)、数 II (数学 II)、数 III (数学 III)、数 A (数学 A)、数 B (数学 B)、簿 (簿記) |
| 理 (理科) | 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、地学基礎・地学 |
| 外 (外国語) | コミュ英 I (コミュニケーション英語 I)、コミュ英 II (コミュニケーション英語 II)、コミュ英 III (コミュニケーション英語 III)、英表 I (英語表現 I) |

(1) 教育学部

入学者選抜実施教科・科目等

| 学部・学科等名及び入学定員等 〔平成28年度志願倍率〕 | 学力検査等の区分・日程 | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 | | 個別学力検査等 2段階級 | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 | | | | | 特別の入試方法等 | | | | |
|--|-------------|---------------------------|------|------------------------------|---|--------|------|------|-----|----------|-----|-----|------|-----|
| | | 教科 | 科目名等 | | 試験の区分 | 国語 | 歴史 | 公民 | 数学 | | 理科 | 外国語 | 総合問題 | 小論文 |
| 教育学部 〔4.3〕 前期 165人 後期 100 その他 35 その他 30 | 前期 2月25日 | 文科系 前期 70人 後期 45 | 国語 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2 | 国語総合 世B、日B、地理Bから1 コミュ英I・コミュ英II・ コミュ英III・英表I } から2 〔2教科〕 | センター試験 | 200 | *100 | 200 | 100 | 200 | | | 900 |
| | | | 公民 | 倫、政経、倫・政経 | | *200 | *100 | *100 | | | | | 400 | |
| | 後期 3月12日 | 理科系 前期 45人 後期 35 | 国語 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 | 教I・教B 教II・教B 教II・教B、簿、情報から1 物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、地学基礎・地学から1 〔2教科〕 | センター試験 | 200 | *100 | 200 | 100 | 200 | | | 900 |
| | | | 公民 | 倫、政経、倫・政経 | | *200 | *100 | *100 | | | | | 200 | |
| 学校教育員養成課程 | 前期 2月25日 | 実技系 〔音楽又は美術〕 前期 10人 | 国語 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2又は1 | 教I・教B 教II・教B 教II・教B、簿、情報から1 物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、地学基礎・地学から1 〔2教科〕 | センター試験 | 200 | *100 | 200 | 100 | 200 | | | 900 |
| | | | 公民 | 倫、政経、倫・政経 | | *200 | *100 | *100 | | | | | 200 | |
| | 後期 3月12日 | 実技系 〔保健体育〕 前期 10人 | 国語 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2又は1 | 教I・教B 教II・教B 教II・教B、簿、情報から1 物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、地学基礎・地学から1 〔2教科〕 | センター試験 | 200 | *100 | 200 | 100 | 200 | | | 900 |
| | | | 公民 | 倫、政経、倫・政経 | | *200 | *100 | *100 | | | | | 200 | |
| 学校教員養成課程 | 前期 2月25日 | 実技系 〔保健体育〕 前期 10人 | 国語 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2又は1 | 教I・教B 教II・教B 教II・教B、簿、情報から1 物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、地学基礎・地学から1 〔2教科〕 | センター試験 | 200 | *100 | 200 | 100 | 200 | | | 900 |
| | | | 公民 | 倫、政経、倫・政経 | | *200 | *100 | *100 | | | | | 200 | |
| | 後期 3月12日 | 実技系 〔保健体育〕 前期 10人 | 国語 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2又は1 | 教I・教B 教II・教B 教II・教B、簿、情報から1 物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、地学基礎・地学から1 〔2教科〕 | センター試験 | 200 | *100 | 200 | 100 | 200 | | | 900 |
| | | | 公民 | 倫、政経、倫・政経 | | *200 | *100 | *100 | | | | | 200 | |

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ① 選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超えている場合には、高得点の教科・科目を採択します。
- ② 物理及び公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を採択します。同時に、理科で基礎を付していない1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を採択します。
- ③ 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります。
- ④ 「学校教育教員養成課程（実技系）」を受験する者は、地歴及び公民から2科目を選択した場合には、理科で基礎を付した2科目（又は基礎を付していない科目1科目）を選択するか、もしくは、地歴及び公民から1科目を選択した場合には、理科で基礎を付していない科目2科目を選択してください。
- ⑤ 「学校教育教員養成課程（実技系）」を受験する者で、地歴及び公民から2科目かつ理科で基礎を付していない科目から2科目を受験した場合は、下記・イのうち、どちらか高得点の組合せを採択します。
- ア 「地歴・公民」の2科目と「理科」基礎を付していない科目
- イ 「理科」基礎を付していない科目と「地歴・公民」の第1解答科目

【個別学力検査等】欄

- ① 「国語総合」については、近代以降の文章、古典（古文、漢文）から出題します。
- ② 数学I、数学II、数学Aについては全範囲を出題範囲とします。数学Bについては、「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- ③ 「英語表現I」については、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

- ① 配点に*印を付してある教科は、選択教科を素します。
- ② 大学入試センター試験「外国語」において、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を0.8倍（200点満点）に圧縮したものを英語の得点とします。
- ③ 実技系の選択にあたっては、実技試験の点数が200点に達しない者は総合点にかかわらず不合格とします。

実技検査内容

| 課程・系 | | 学校教育教員養成課程・実技系 | | |
|---|----------------------|--|---|--|
| 実施日程 | | 前期日程 | | |
| 志望教科 | 区分 | 選択種目 | 検査内容 | 注意事項 |
| 音楽 | 実技Ⅰ群 | A. 声楽 | ○次の曲を原語・暗譜で演奏してください。 ○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを入学願書等とともに1部提出してください。(伴奏者は大学側が用意します。) G. B. パッサーニ作曲 「眠っているのか、美しい女よ(Dormi, bella)」 ----- 高中声用は全音楽譜出版社刊『イタリア歌曲集2』、低声用はカワイ出版刊『古典イタリア歌曲集2』を使用してください。 | <p>選択種目提出票(本要項添付所定様式)を出願時に提出してください。</p> <p>選択種目の組合せ</p> <p>選択種目の組合せは以下の3とおりとします。 いずれかひとつの組合せを選択し、「音楽実技検査選択種目提出票」に記入してください。</p> <p>Aと2、Bと1、Cと2</p> |
| | | B. ピアノ | ○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。) L. van ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ No. 13 Op. 27-1 第1楽章」 | |
| | | C. 管・打楽器 | ○任意の1曲を無伴奏で演奏してください。 ○暗譜の必要はありません。(演奏時間が長い場合は、途中でカットすることがあります。) ○演奏する楽曲の楽譜のコピーを入学願書等とともに1部提出してください。 ○楽器及び演奏に必要なものは各自持参してください。但し、マリンバの場合、大学で用意する楽器(サウリ MS-75 〈4 octave〉、49 鍵、C28~C76)で演奏してください。 【受験可能楽器】 フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、マリンバ、スネア・ドラムからひとつを選択 | |
| | 実技Ⅱ群 | 1. 声楽 | ○次の曲を暗譜の上母音の a で演奏してください。 ○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを入学願書等とともに1部提出してください。(伴奏者は大学側が用意します。) 『コンコーネ 50 番』より 15 番 ----- 全音楽譜出版社刊『コンコーネ 50 番』を使用してください。 | |
| | | 2. ピアノ | ○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。) モーツァルト作曲「ピアノソナタ No. 16 KV545 第2楽章」 | |
| | 美術 | 共通 (全員が受験してください。) | 造形表現Ⅰ(平面) 与えられたモチーフを配置し、鉛筆を用いて素描してください。 (試験時間: 120分) | |
| 造形表現Ⅱ(立体) 与えられた主題を、配付された素材(紙)の特性を生かして立体的に表現してください。 (試験時間: 180分) | | | | |
| 保健体育 | 共通 (全員が受験してください。) | [基礎運動能力テスト] 1. 12分間走 2. 立ち幅跳び 3. ハンドボール投げ 4. マット運動 | <p>選択種目提出票(本要項添付所定様式)を出願時に提出してください。</p> <p>雨天の場合は基礎運動能力テストの種目に一部変更があります。</p> <p>○各種目に応じたシューズの使用を認めます。体育館シューズを別に用意してください。 ○バドミントン・テニス受験者はラケットの持参を認めません。 ○柔道受験者は柔道衣を持参してください。 ○野球受験者はグローブ、バット、ヘルメットを持参してください。</p> | |
| | | <p>〔種目別 実技テスト〕</p> <p>1. 陸上競技(100m 走、800m 走、走幅跳、走高跳、砲丸投、槍投、ハンマー投、円盤投から1種目)</p> <p>2. バスケットボール</p> <p>3. バレーボール</p> <p>4. サッカー</p> <p>5. 柔道</p> <p>6. バドミントン</p> <p>7. 創作ダンス</p> <p>8. 野球(硬式)</p> <p>9. ハンドボール</p> <p>10. テニス(硬式)</p> | | |

(2) 経済学部

入学者選抜実施教科・科目等

| 学部・学科等名及び入学定員等 (平成28年度 志願倍率) | 学力検査等の 区分・日程 | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 | | 個別学力検査等 2段階選抜 | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 | | | | | | | 特別の入試方法等 | | | |
|---|-----------------|---------------------|--|--|--|---------|------|------|------|------|------|----------|------|------|---|
| | | 教科 | 科目名等 | | 試験の区分 | 国語 | 歴史 | 公民 | 数学 | 理科 | 外国語 | | 総合問題 | 小論文 | 実技 |
| 経済学部 (6.4) 前期 300人 180 後期 80 その他 40 | 前期 2月25日 | 国 | 国語 | から2 | 教I・教II・教A・教B・簿・情報から1 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・英表Ⅰ | センター試験 | 200 | *100 | *100 | 200 | 100 | 200 | | 900 | 推薦 スポーツ 推薦 帰国子女 社会人 私費外国 人留学生 追加合格 |
| | | 地歴・公民 | 地理Aから1又は2 地理B、日A、日B、地理A、地理Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から0又は1 教I、教II、教Aから1 教II、教B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 (又は物、化、生、地から1) 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 (6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目) | | | | | | | | | | | | |
| | 後期 3月12日 | 国 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から1 教I、教II、教Aから1 物基、化基、生基、地基から2 (又は物、化、生、地から1) 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 (3教科4(3)科目又は2教科3科目) | その他 小論文 (社会科学を学ぶ上で必要な理解力、論理的な思考力、表現力を問う) | センター試験 | *100 | *100 | *100 | *100 | *100 | *100 | *100 | 600 | | |
| | | 理 | 物理 | | | 個別学力検査等 | | | | | | 1200 | 1200 | | |
| | | 外 | 英語 | | | 計 | *100 | *100 | *100 | *100 | *100 | *100 | 1800 | 1800 | |

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

〔前期日程・後期日程〕
 ①選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超えて受験している場合には、高得点の教科・科目の成績を採用します。ただし、地歴及び公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を採用します。同様に理科で基礎を付していない1科目を利用する場合も、得点にかかわらず、第1解答科目を採用します。
 ②外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します (リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。

①地歴及び公民の2科目を選択する際、【世B、日B、地理B】から必ず1科目以上を選択してください。

②理科で基礎を付した2科目の合計得点

a. 理科で基礎を付していない第1解答科目の得点

b. 理科で基礎を付した2科目の合計得点

c. 理科で基礎を付した2科目の合計得点

〔後期日程〕
 本学部が利用する教科・科目数を超えて受験している場合には、次の中で最も高得点になる利用教科・科目数の組合せを採用します。

a. 地歴2科目と公民1科目の組合せ

b. 地歴1科目と公民1科目の組合せ

c. 国語、公民の第1解答科目、

・数学【教I、教II・教A】

・数学【教II、教B、簿、情報】

・理科【物基、化基、生基、地基】の2科目 (又は【物、化、生、地】の第1解答科目)

から2つの組合せ

【個別学力検査等】欄

①「数学I、数学II、数学A」は全範囲を出題範囲とします。数学Bについては、「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

②「英語表現I」については、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

①配点に※印を付してある教科は、選択教科を表します。

②大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験 (200点満点) とリスニング (50点満点) の合計点を0.8倍 (200点満点) に換算し、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験 (200点満点) の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。

③前期日程の個別学力検査において、「数学」「外国語」は各300点とし、高得点の教科の点数を2倍します。

(3) システム工学部

入学選抜実施教科・科目等

| 学部・学科等名及び入学定員等 〔平成28年度 志願倍率〕 | 学力検査等の区分・日程 | 大学入試センター試験の 利用教科・科目名等 | | 個別学力検査等 科目等 | 試験の区分 | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 | | | | | | | 特別の入試方法等 | | | | | |
|--|-------------|--------------------------|---------------------------|----------------|--------|------------------------|------|------|------|-----|-----|-----|----------|------|------|----------------------------|----------|--|
| | | 教科 | 科目名等 | | | 国語 | 歴史 | 地理 | 公民 | 数学 | 理科 | 外国語 | | 総合問題 | 小論文 | 実技 | 配点 合計 | |
| システム工学部 〔4.0〕 305人 前期 170 後期 100 その他 35 | 前期 2月25日 | 国 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 | 教 外 | センター試験 | 国語 | 200 | *100 | *100 | 200 | 400 | 200 | | | 1100 | 推薦 私費外国 人留学生 追加合格 | | |
| | | 地歴 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 | | | 公民 | | | 200 | | | | | | | | | |
| | | 公民 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 | | | 歴史 | | | | | | | | | | | | |
| システム工学部 〔4.0〕 305人 前期 170 後期 100 その他 35 | 後期 3月12日 | 国 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 | 教 外 | センター試験 | 国語 | 200 | *100 | *100 | 200 | 400 | 200 | | | 1100 | 推薦 私費外国 人留学生 追加合格 | | |
| | | 地歴 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 | | | 公民 | | | 200 | | | | | | | | | |
| | | 公民 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 | | | 歴史 | | | | | | | | | | | | |
| | | 計 | | | 計 | 200 | *100 | *100 | 400 | 400 | 400 | | | 1500 | | | | |
| | | 計 | | | 計 | 200 | *100 | *100 | 300 | 300 | 300 | | | 1100 | | | | |
| | | 計 | | | 計 | | | | | | | 400 | | 400 | | | | |
| | | 計 | | | 計 | 200 | *100 | *100 | 300 | 300 | 200 | 400 | | 1500 | | | | |

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ①地歴及び公民において、必要教科・科目数を超えて受験している場合には、得点にかかわらず第1解答科目を採択します。
- ②外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します（リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります）。

【個別学力検査等】欄

- ①数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A は全範囲を出題範囲とします。数学B は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- ②「英語表現Ⅰ」については、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

- ①配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
- ②大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を0.8倍（200点満点）に圧縮したものを英語の得点とします。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験（200点満点）の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とします。

総合問題の出題内容

総合問題では、教科ごとの学習到達度だけではなく、問題に対する総合的な分析力・応用力を問います。システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性等を判断します。出題内容は以下のとおりとします。

| 学 科 | 出 題 内 容 | 注 意 事 項 |
|---------|--|--|
| システム工学科 | ものごとを科学的視点でとらえ、筋道をたてて論理的に分析し、その結果を総合的に判断して表現する能力を問います。具体的には、 ○数学的思考を問う論述問題 ○図表を読み取る論述問題 ○物理的思考を問う論述問題 が出題されます。 | ○数学的思考を問う論述問題、 ○図表を読み取る論述問題、 ○物理的思考を問う論述問題のうち、2 題を選択して解答します（選択は問題を見てから決めることができます）。 |

(4) 観光学部

入学者選抜実施教科・科目等

| 学部・学科等名及び入学定員等 (平成28年度 志願倍率) | 学力検査等の 区分・ 日程 | 大学入試センター試験の 利用教科・科目名 | | 個別学力検査等 | | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 | | | | | | | 特別の 入試方法 等 | | | |
|---|---------------------|-------------------------|--|--|-------------|------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------------------|-------------|-----|---|
| | | 教科 | 科目名等 | 教科等 | 科目名等 | 試験の区分 | 国語 | 歴史 | 公民 | 数学 | 理科 | 外国語 | | 総合 問題 | 小論文 | 実技 |
| 観光学部 (4.4) 120人 前期 55 後期 35 その他 30 | 前期 2月25日 | 国 | 世B、日B、地理Bから1又は2 } から2 現社、倫、政経、倫・政経から0又は1 } 教I、教I・教Aから1 } 教II、教II・教B、簿、情報から1 } 物基、化基、生基、地基から2 (又は物、化、生、地から1) 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 } (6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目) | 国語総合 数I・教II・教A・教B } から1 コミュ英I・コミュ英II・ コミュ英III・英表I } | 国 数 外 | センター試験 | 200 *300 | *100 100 | *100 *100 | 200 *300 | 100 *100 | 200 *300 | 200 *300 | 200 *300 | 900 | 推薦 社会人 AO 私費外国 人留学生 追加合格 |
| | | 国 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 } 又は2 教I、教I・教Aから1 } 又は2 教II、教II・教B、簿、情報から1 } 物基、化基、生基、地基から2 } (又は物、化、生、地から1) 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 } (3教科4(3)科目又は2教科3科目) | 小論文 ・基本的な国語力を試します。 ・課題文を与えて読解力、表現力を問います。 | その 他 | センター試験 | *100 *300 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | 600 | | |
| | 後期 3月12日 | 国 | 世B、日B、地理Bから1又は2 } から2 現社、倫、政経、倫・政経から0又は1 } 教I、教I・教Aから1 } 教II、教II・教B、簿、情報から1 } 物基、化基、生基、地基から2 (又は物、化、生、地から1) 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 } (6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目) | 国語総合 数I・教II・教A・教B } から1 コミュ英I・コミュ英II・ コミュ英III・英表I } | 国 数 外 | 個別学力検査等 | | | | | | | | 400 | | |
| | | 国 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 } 又は2 教I、教I・教Aから1 } 又は2 教II、教II・教B、簿、情報から1 } 物基、化基、生基、地基から2 } (又は物、化、生、地から1) 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 } (3教科4(3)科目又は2教科3科目) | 小論文 ・基本的な国語力を試します。 ・課題文を与えて読解力、表現力を問います。 | その 他 | 個別学力検査等 | | | | | | | 400 | | | |
| | | | | | 計 | 200 *300 | *100 100 | *100 *100 | 200 *300 | 100 *100 | 200 *300 | 200 *300 | 200 *300 | 1500 | | |
| | | | | | 計 | *100 *300 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | *100 *100 | 1000 | | |

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- ① 選択教科・科目のうち、必要教科・科目数を超えている場合には、高得点の教科・科目を選択します。
- ② 地理及び公民から1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択します。同様に、理科で基礎を付していない1科目を利用する場合は、得点にかかわらず、第1解答科目を選択します。
- ③ 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します。(リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります。)
- ④ 前期日程を受験する者は、地理及び公民の2科目を選択する際、【世B、日B、地理B】から必ず1科目以上を選択してください。
- ⑤ 後期日程を受験する者は、理科で基礎を付した科目から2科目、他の教科から1科目の計3科目を選択してください。
- ⑥ 後期日程を受験する者は、上記②及び、第1解答科目を使用せず第2解答科目とその他の教科を組み合わせることは認めないという条件のもと、最も得点が高くなる選択科目の組合せを選択します。

【個別学力検査等】欄

- ① 前期日程の「国語総合」については、近代以降の文章、古典(古文、漢文)から出題します。
- ② 数学I、数学II、数学Aは全範囲を出題範囲とします。数学Bについては、「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- ③ 「英語表現I」については、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

- ① 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
- ② 大学入試センター試験(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を0.8倍(200点満点)に圧縮したものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験(200点満点)の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。

個別学力検査等の試験場及び試験日時

1. 試験場

和歌山大学 栄谷キャンパス（和歌山市栄谷930）

本冊子の裏表紙に本学への交通アクセスを掲載していますので、参照してください。

試験当日のバスは、JR 和歌山駅前、南海和歌山市駅前、南海和歌山大学前前から定期便の他に臨時便が運行されます。混雑が予想されますので余裕を持って乗車してください。

なお、試験当日の臨時バス等の時刻表は、2月中旬頃に本学ホームページ「入試情報」に掲載を予定しています。

2. 試験日時

(1) 前期日程：平成29年2月25日（土）

| 学 部 | 試験時間 | | |
|---------|-------------|-----|---------------|
| 教 育 学 部 | 地理歴史 | 理 科 | 10：00 ～ 11：30 |
| | 外 国 語 | | 12：40 ～ 14：10 |
| | 国 語 | 数 学 | 15：00 ～ 16：30 |
| | 実 技 検 査（注1） | | 10：00 ～ 16：20 |
| 経 済 学 部 | 外 国 語 | | 12：40 ～ 14：10 |
| | 数 学 | | 15：00 ～ 16：30 |
| システム工学部 | 外 国 語 | | 12：40 ～ 14：10 |
| | 数 学 | | 15：00 ～ 17：00 |
| 観 光 学 部 | 外 国 語 | | 12：40 ～ 14：10 |
| | 国 語 | 数 学 | 15：00 ～ 16：30 |

（注1） 教育学部 学校教育教員養成課程実技系の実技検査における終了時間は、最長の場合の終了時間を示しています。ただし、志願者数及び進行状況により早くなる場合があります。

(2) 後期日程：平成29年3月12日（日）

| 学 部 | 試験時間 | |
|---------|---------|---------------|
| 教育学部 | 小 論 文 | 10：00 ～ 12：00 |
| 経済学部 | 小 論 文 | 10：00 ～ 11：30 |
| システム工学部 | 総 合 問 題 | 10：00 ～ 12：00 |
| 観光学部 | 小 論 文 | 10：00 ～ 11：30 |

受験上の注意

共通注意事項

1. 試験当日は、「和歌山大学入学者選抜受験票（以下「和歌山大学受験票）」及び「平成 29 年度大学入試センター試験受験票」を必ず持参・携帯し、試験場に入場する際、あるいは本学係員の指示に応じ提示してください。試験室の所定の座席に着席後は、机の上に置いてください。実技試験の場合は監督者の指示に従ってください。なお、受験票を忘失・紛失した場合には、試験場入口の本学係員に申し出て再発行等の措置を受けてください。
2. あらかじめ、試験場の所在地及び所要時間を確認しておいてください。試験日の前日は入構禁止です。
3. 試験当日は北側進入路（システム工学部裏側）からは入構できません。正門（バス停）側進入路から入構してください。
4. 交通事情等を考慮し、余裕をもって試験場に到着するようにしてください。
5. 試験場内には自動車・バイク等の乗り入れはできません。
6. 付添者は、試験場内に立ち入ることはできません。
7. なお、遠方の受験者にあつては、大雪や風などによって飛行機、船、列車等が通常のとおり運行されない事態も起こり得ますので、あらかじめ気象状況や交通機関の運行状況を把握し、数日前から試験場近郊に滞在するなどの対応をとってください。
8. 試験室等の位置は、試験当日に試験場入口に掲示します。
9. **試験開始時刻の 30 分前までに入室してください。監督者による説明が始まります。**
10. 試験室では、机の上に表示している受験番号が受験票の受験番号と同一であることを確認し、着席してください。
11. 遅刻した場合は、試験開始時刻後 30 分以内に限り受験を認めます。
12. 試験当日に公共交通機関（電車等）で事故等が生じて運行停止となるなどの事情により、試験開始時刻までに試験場に赴くことが困難な場合には、直ちに和歌山大学入試課までそのことを連絡するとともに、その旨を試験場入口本学係員に申し出てください。交通機関の事故等による事情であることが証明できる書類（公共交通機関が発行する遅延証明書等）の交付を受けてください。
13. 試験開始から試験終了まで退室は認めません。
14. 体調不良やトイレ等、やむを得ない場合は、挙手し、監督者の指示に従ってください。
15. スマートフォン、携帯電話は、試験室に入る前にアラームの設定を解除し、電源を切ってください。時計の代わりとして利用することを禁じます。
16. 個別学力検査等試験時間中（実技検査を除く）、机の上に置くことのできるものは、「和歌山大学受験票」、「平成 29 年度大学入試センター試験受験票」、鉛筆、万年筆、ボールペン、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、時計（時計機能のみのもの）です。
17. 飲み物等はかばんに入れてください。
18. 所持品、コート類は、各自機の横の床上に整理して置いてください。机の中は利用できません。
19. 寒い場合は、コート類を着用しても差し支えありません。
20. 英文字や地図等がプリントされている上着等の着用は認めない場合があります。
21. 試験中、受験者間での物品の貸借を禁じます。
22. **出願時に届け出た科目以外を受験することはできません。**
23. 問題冊子や解答用紙に不備があれば、挙手して監督者に教えてください。
24. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。解答用紙は持ち帰れません。

25. 不正行為の取扱いについては、大学入試センター試験に準じて行います。試験中に不正行為が判明した場合は、不正行為を行った受験者の受験の中止と退室を命じ、その後の受験を認めません。また、本学の当該試験日程で受験した全ての個別学力検査等の成績を無効とします。
26. 最寄りの駅、バス停、和歌山大学周辺等での合否電報（電子メールを利用した合否連絡等の類似行為を含む）の予約等について、本学は一切関与していません。

前期日程の注意事項

1. 教育学部の受験者は、受験しない科目の試験時間中に試験室を利用できません。
2. 経済学部の「簿記」の受験者は「簿記」の受験に際し、そろばん又は電子卓上計算機（電池式で記録紙・信号音の出ないもの）の使用を認めます。

不測の事態が生じた場合の対応

公共交通機関の大幅な乱れや自然災害の影響等により、所定の日程による試験実施が困難となるような不測の事態が生じた場合は、本学ホームページにてお知らせします。

和歌山大学ホームページ「入試情報」 <http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>

受験者の宿泊について

受験者の宿泊については、本学では斡旋しません。各自で手配してください。

合格者発表

下記の合格者発表日時に、全学部の合格者の受験番号を本学構内掲示板に掲示するとともに、合格者には合格者発表日午前中に「合格通知書」及び「入学手続案内等」を送付します。不合格者への通知は行いません。

掲示場所は、当日案内します。

なお、合否等の電話・メール等による問合せには応じません。

| 試験日程区分 | 日 時 |
|--------|-----------------------------|
| 前期日程 | 平成 29 年 3 月 6 日 (月) 午前 9 時 |
| 後期日程 | 平成 29 年 3 月 21 日 (火) 午前 9 時 |

合格者の情報提供

各試験日程の合格者発表後、本学ホームページで全学部の合格者受験番号をお知らせします。

本学ホームページでの発表は、本学の情報提供の一環として行うものであり、公式の合格者発表は合格通知書の郵送及び本学掲示板による掲示となります。

和歌山大学ホームページ「入試情報」

<http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>

【掲載期間】

前期日程：3月 6日 (月) 正午～3月 10日 (金) 正午まで

後期日程：3月 21日 (火) 正午～3月 24日 (金) 正午まで

掲載開始時間は多少前後することがあります。

掲載期間中は、インターネット回線の混雑により本学ホームページに繋がりにくいことがあります。

入学手続

合格通知を受けた者は、入学手続期間内に入学手続を行ってください。入学手続の詳細は、合格通知書とともに送付する「入学手続案内」で指示します。

入学手続方法

「入学手続案内」を熟読の上、必要書類等を整え、「持参による方法」又は「郵送による方法」により行ってください。郵送による場合は、書留速達郵便で入学手続期間【時間厳守】までに本学必着するように郵送してください。

入学手続期間

| 試験日程区分 | 日時 |
|--------|--|
| 前期日程 | 平成 29 年 3 月 14 日（火）から 3 月 15 日（水） 9 時 30 分～17 時まで |
| 後期日程 | 平成 29 年 3 月 26 日（日）から 3 月 27 日（月） 9 時 30 分～17 時まで |

提出書類

| 提出書類 | 備考 |
|---------------|--|
| 大学入試センター試験受験票 | 照合し、入学手続完了後押印の上、返却します。 |
| 和歌山大学受験票 | 照合し、入学手続完了後返却します。 |
| 合格通知書 | 照合し、入学手続完了後返却します。 |
| 入学料 | 282,000 円（下記注参照） 本学所定の振込依頼書により、入学手続時までに納入してください。 平成 29 年度入学者の納入金額及び納入方法の詳細は「入学手続案内」でお知らせします。 |
| その他 | 上記以外の必要書類は、「入学手続案内」で指示します。 |

注 1 上記記載の金額は、平成 28 年 4 月現在のものです。

注 2 入学料の改定が行われた場合には、改定後の金額を納入することになります。

注 3 既納の入学料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

(ア) 誤って二重に納入した場合

(イ) 入学手続を行わなかった又は完了しなかった場合

注 4 入学料の納入のみでは、入学手続を完了したことにはなりません。

入学前の主な諸経費（単位：円）

| 諸経費 | 教育学部 | 経済学部 | システム工学部 | 観光学部 |
|---------------|--------|--------|---------|--------|
| 学会費・同窓会費・後援会費 | 37,000 | 52,000 | 32,000 | 52,000 |
| 研修・実習経費 | 12,000 | 20,000 | | 23,000 |
| 学生団体諸会費 | 20,500 | 20,500 | 20,500 | 20,500 |

注1 上記記載の金額は、平成28年4月入学者のものです。平成29年4月入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。

入学後に必要な納付金

授業料 半期分 267,900円 年額 535,800円

注1 上記記載の金額は、平成28年4月現在のものです。

注2 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

注3 平成29年度入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。

入学手続に関する注意事項

1. 入学手続期間中に入学手続を完了しない場合は、本学への入学を辞退したものとして取り扱います。
2. 本学の入学手続を完了した者は、これを取り消して他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）に入学手続をすることはできません。また同様に、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）に入学手続を完了した者は、これを取り消して本学に入学手続をすることはできません。
3. 「前期日程」合格者が入学手続を完了した場合は、国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の「後期日程」を受験しても、当該大学の合格者にはなりません。
4. 入学手続完了後、高等学校等の課程を卒業（修了）しないなどの事由が生じた場合は、入学許可を取り消します。
5. 入学手続完了後、理由の如何に関わらず入学を辞退する場合は、平成29年3月31日（金）17時までに「入学辞退願」を本学入試課に提出し、その許可を得てください。入学手続完了後に入学を辞退した場合は、入学料の返還はできません。平成29年3月31日（金）17時を超えての「入学辞退願」は受付しませんので注意してください。

欠員補充

合格者又は入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、「追加合格」又は「欠員補充第2次募集」による欠員補充を行うことがあります。

追加合格又は欠員補充第2次募集実施の有無の情報提供

本学ホームページ「入試情報」<http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>で全学部の追加合格又は欠員補充第2次募集の実施の有無をお知らせします。

【追加合格の実施の有無 掲載期間】

平成29年3月28日（火）午前9時～3月31日（金）まで

【欠員補充第2次募集実施の有無 掲載期間】

掲載日時未定

掲載開始時間は多少前後することがあります。

追加合格

1. 入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、前期日程又は後期日程のいずれかの選抜の不合格者の中から合格者の追加を行うことがあります。
2. 他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）に入学手続を完了した者は、それを取り消して本学への入学手続を行うことはできません。
なお、本学の前期日程合格者のうち入学手続を完了しなかった者は、当該学部の前期日程の追加合格の対象となりません。
また、本学の後期日程合格者のうち当該学部の入学手続を完了しなかった者は、当該学部の後期日程の追加合格の対象となりません。
3. 追加合格候補者には、平成29年3月28日（火）から3月31日（金）までの間に、入学願書に記載した「追加合格連絡先」へ、電話等により直接本人に対してのみ行います。本学からの連絡が確実に受けられるよう所在を明らかにしておいてください。
4. 追加合格候補者は発表しません。電話等の問合せには応じません。
5. 出願後、入学願書に記載した「追加合格連絡先」に変更がある場合は、速やかに和歌山大学入試課に届け出てください。
6. 本人の不在や「追加合格連絡先」の変更の届出がないなどの理由により、追加合格候補者の通知ができなかった場合は、追加合格者としての取扱いが無かったものとする場合があります。

欠員補充第2次募集

合格者又は入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、必要に応じ「欠員補充第2次募集」を行うことがあります。

なお、実施する場合の募集人員、出願資格、出願期間、出願手続、入学者選抜方法、合格者発表及び入学手続等は、本学ホームページ「入試情報」に掲載する「欠員補充第2次学生募集要項」により確認してください。

個人情報

本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する方針」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人和歌山大学における個人情報の保護に関する規程」等に基づき、厳密に取り扱います。

1. 出願書類等に記載された個人情報は、「入学者選抜（出願処理、選抜試験実施）」、「合格者発表」、「入学手続」の入試業務、「入試の改善や志願動向等の調査・研究」、「その他の本学における諸調査・研究等」を行うために利用します。出願書類等に不備があった場合には、その訂正・補完を迅速に行っていたくために、本学に出願していることを、保護者等又は出身学校に連絡する場合があります。

なお、入学者については、「入学者の受入準備」、「教務関係（学籍管理、修学指導等）」、「学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金業務、就職支援等）」、「授業料等収納業務」を行うために利用します。

2. 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限って、合否及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。

3. 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、「入試結果の集計・分析」、「入学者選抜方法の調査・研究」及び「学生支援関係（授業料免除・奨学金業務等）」を行うために利用します。

4. 一部の業務を外部の事業者へ委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して個人情報を提供します。

5. 捜査機関等が捜査上必要とした場合等、行政機関等が法令に定める業務等を行うに必要な限度で利用することについて、相当の理由があるときに、当該行政機関に個人情報を提供します。

入試情報

志願者数・受験者数・合格者数・追加合格者数・入学者数

和歌山大学ホームページ「入試情報」 <http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/> でお知らせします。

合格者の最高点・最低点及び合格者平均点

募集単位ごとに、合格者の最高点・最低点、合格者平均点を、大学入試センター試験と個別学力検査等の総合点で平成 29 年 4 月以降に本学ホームページ上で開示します。ただし、募集人員又は合格者のいずれかが 10 人以下の入試については開示しません。

正解解答例、出題の意図

平成 29 年度入試で出題した科目等の正解・解答例又は出題の意図を、平成 29 年 4 月以降準備が整い次第、開示します。

入試成績等の本人開示

(共通事項)

平成 29 年度一般入試を受験した者（以下「開示申請者」）に限り、開示します。代理人による申請は認めません。

(注意)

次の受験者は、開示請求をしても開示を行いません。(合格者選考の対象とならないため。)

- ・ 各学部・学科等が指定する平成 29 年度大学入試センター試験の教科・科目及び個別学力検査等の教科・科目を1つでも受験しなかった者。
- ・ 出願時に届け出た個別学力検査等の科目を1つでも受験しなかった者。
- ・ 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の推薦入試合格者で入学手続を行った者又は当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者で前期日程・後期日程受験者。
- ・ 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）のAO入試合格者で入学手続を行った者又は当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者で前期日程・後期日程受験者。
- ・ 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の前期日程に合格し、入学手続を行った後期日程受験者。

(試験成績)

1. 申請期間・指定曜日、窓口時間及び申請先

平成 29 年 5 月から 6 月の 2 か月間。月曜日から水曜日（祝祭日を除く）の 9 時から 17 時（12 時から 13 時を除く）。

和歌山大学入試課 〒640-8510 和歌山市栄谷 930

2. 申請方法

- ① 平成 29 年 4 月 25 日以降に本学ホームページ(トップ→入試情報→入試関連情報→入試情報開示)に掲載する「試験成績開示申請書」をダウンロードし、A4 サイズに印刷し、必要事項を記入してください。
- ② 下記「提出書類」を取り揃えてください。
- ③ 申請期間を確認し、申請先に持参又は郵送により申請してください。
- ④ 持参の場合は、所定の申請期間・曜日に注意し、申請先に提出してください。
- ⑤ 郵送の場合は、長形 3 号定形封筒に 512 円分切手を貼付し、返送先の郵便番号・住所・宛名を記入した返送用封筒を同封してください。本学への郵送用封筒には「一般入試 前期（又は後期）日程成績開示請求」と朱書きし、平成 29 年 6 月 28 日（水）17 時までに必着となるよう郵送してください。

3. 提出書類

- ① 「試験成績開示申請書」
- ② 「平成 29 年度和歌山大学受験票」原本 前期日程又は後期日程（開示申請する日程）
- ③ 「平成 29 年度大学入試センター試験受験票」原本

※上記受験票は確認後返却します。

4. 開示内容

| | |
|----|--|
| 得点 | (a) 大学入試センター試験総合点（本学所定の換算点） (b) 個別学力検査等科目別得点 (c) 個別学力検査等合計点 (d) 総合点：(a)+(c) |
| 順位 | 当該募集単位における順位 ただし、募集人員又は合格者のいずれかが10人以下の入試については開示しません。 |

5. 開示時期

申請必要書類受理後、準備でき次第順次開示します。郵送の場合は、「書留」郵便にて郵送します。

(調査書)

客観的な数字・記号、客観的事実が記述されている部分のみを**閲覧開示**します。「特別活動の記録」、「指導上参考となる諸事項」、「総合的な学習の時間の内容・評価」、「備考」を除きます。申請期間・指定曜日、窓口時間、申請先、申請方法、提出書類は試験成績に準じます。ただし、開示は閲覧のみのため、**申請方法は「持参による方法」のみとなります。**

学部の紹介

1. 教育学部

教育学部は、その前身を明治期に発足した師範学校におく、本学でもっとも古い歴史をもった学部です。昭和24年（1949）新制和歌山大学では学芸学部、その後、教育学部と学部名称は変わりますが、その間一貫して教員養成を通じて地域社会に大きな貢献をしてきました。

平成元年（1989）に教員養成以外にも視野を広げた、教員免許状取得を目的としない新課程を設置し、組織や名称を変更しながら今日まで継承してきましたが、平成27年（2015年）入学者をもって終了し、学校教育教員養成課程に一本化しました。これは、少子化や学力低下、いじめや不登校など、深刻化し、複雑化していく諸問題に対応するため、教員養成に学部の力を集約させることを狙った改革です。これまで新課程が担った、学校の外への視点や幅広い教養を教員養成課程に取り込みつつ、これらの問題解決にあたることを考えています。

この課程には初等教育コース、中等教育コース、特別支援教育コースの3つのコースをおきます。このようにキャリアパスを明確にすることで、自分のめざすべき進路にまっすぐに向かうことができるようにしました。もっとも、それぞれのコースは相互に関連しているので、それらをつなぐ視点も大切にしています。具体的には小・中連携を中心に特別支援教育や幼児教育とつなぎます。

本学部が力を入れていることの一つに、実践力の向上があります。これは単に「即戦力の養成」というのとは少し違います。実際、多様な学校現場ですぐに役に立つ人材になるのは至難です。大切なことは、困難な教育現場にあつて、日々悩みながら同僚たちと協働して子どもの支援に向かう覚悟と姿勢を準備することです。

そのためには、自主的で多様な教育経験が必要になります。教育実習はその最大のものですが、それ以外にへき地・複式教育実習のようなオプションの実習、経験豊かな現場教員の授業、さらには教育ボランティアや教育系のサークルなど課外の活動も多く用意されています。これらを通じて、悩みながら成長し続ける教員になっていけるよう支援しています。

初等教育コース

このコースは児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは初等（小学校）の専門性を高めるために「初等教育エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や小学校教科の指導法及び教科内容の力をつけます。また小中連携を意識した「小中連携科目」の履修により校種間のつながりを意識した学びができます。このコースでは卒業要件として、[小学校教員免許1種]の取得が課せられます。本人の希望により幼稚園教員免許や中学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、小学校を中心として、幼・中・高・特別支援学校の教員のほかに、心理職、児童施設指導員、障害者施設指導員、公務員、大学院進学などがあります。

中等教育コース

教科（分野）の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは教科の専門性を高めるために「中等教育エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や中学校・高等学校教科の指導法及び教科内容の力をつけます。このコースでは卒業要件として、[中学校教員免許1種]の取得が課せられます。本人の希望により小学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、中学校・高等学校を中心として、小・特別支援学校の教員のほかに、諸種の教育関係職、公務員、大学院進学などがあります。

特別支援教育コース

このコースでは、特別支援教育に関する専門的な知識と技能を修得します。通常の教師としての資質を高めながら、学習や発達に困難のある児童生徒や、心身に障害を有する児童生徒など、教育上特別なニーズを有する子どもの指導、支援に関する高度な専門性を身につけることが目標です。

授業では、特別支援教育に関する教育学、心理学、指導法、医療、福祉について、系統的な知識や技術を学ぶとともに、教育の時代的な変化の背景にある思潮や、教育の原理、歴史についても学習し、表面的スキルの修得に終わらない深い学びを目指します。さらに子どもと接する機会を多く設け、体験を通して学ぶことができる授業を展開しています。

このコースの卒業要件として、[小学校教員免許1種]又は[中学校教員免許1種]の取得に加えて、[特別支援学校教員免許1種]を取得することになります。

卒業後の進路は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員のほかに、福祉施設職員、公務員、一般企業、大学院進学などがあります。

2. 経済学部

本学部は、1922年（大正11年）に創立された旧制和歌山高等商業学校以来の伝統を受け継ぎ、100年近くにわたって社会に多くの優れた人材を送り出してきました。この間、時代と社会の要請にこたえながら、経済社会の理解に不可欠な学問分野である経済学、経営学、会計学、情報学、法学の教員を揃え、論理的思考力、専門知識、実務能力、幅広い教養を有する人材の養成に努めてきました。卒業後の進路は、金融・製造・流通・情報・公務など多様な業種にわたり、昨今の厳しい就職状況下でも就職率は高い水準を保っています。また、本学大学院経済学研究科修士課程に進学する学生もいます。優秀な成績を修めた学生は、3年次修了時点で大学院に進学できる制度が設けられています。

近年の多様化・複雑化する社会においては、複数の学問分野にまたがる専門知識を活用し、一人ひとりが他の人と協力しながら問題を発見・解決する能力が求められています。そのような能力・資質を身につけるために、本学部のカリキュラムは、経済学、経営学、会計学、情報学、法学の各学問領域での体系的な学修に加え、これらのうちのいくつかの学問領域の学修を組み合わせています。その上で、卒業後の進路において必要となる専門知識や実務能力などを考慮して横断的な学問領域における授業科目を体系化しています。学生は初年時から将来の自分の姿を思い描きながら主体的・計画的に学修を進めます。このカリキュラムでは、学修目標とそれによって目指せる可能性のある代表的な進路を想定し、次の「プログラム」を設けています。

「グローバル・ビジネス&エコノミー」

グローバルな視点から経済領域・経営領域で種々の課題に対応できる能力を身に付け、グローバル企業、国際機関、NPO・NGO などにおいて中心的な役割を担える人材となることを目指します。

「企業分析・評価」

企業の資金調達・運用から事業譲渡など、銀行の融資審査や証券会社の引受、会計事務所のコンサルティング業務、一般企業のファイナンス関連業務などで企業価値の分析及び評価を行うことができる人材となることを目指します。

「ビジネスデザイン」

新たな視点から事業、企業の再活性化に取り組める能力を身に付け、企業の企画部門などにおいて、高い企画力を持って組織変革や業務改善を担える人材や、起業家などを目指します。

「企業会計・税法」

会計学及び税法の視点からの実務能力を身に付け、企業の経理・財務部門において、会計・法制度の知識をもとに組織活性化の支援に取り組む人材や、税理士、公認会計士、不動産鑑定士、国家・地方公務員などを目指します。

「地域公共政策・公益事業」

地域社会における課題解決能力を身に付け、地域の活性化を支援する国家・地方公務員や、公益性の高い事業主体の職員などを目指します。

「サステイナブル・エコノミー」

経済における持続可能性を実現できる多様性・柔軟性を有する能力を身に付け、企業のCSR 関連部門、社会的企業、環境 NGO・NPO などにおいて、多様な利害関係者と各組織の橋渡しとなれる人材となることを目指します。

3. システム工学部

システム工学部システム工学科の特徴

近年、科学技術の急速な発展に伴い、さまざまな工業技術が高度化・専門化してきました。また、一方で、エネルギー、環境、情報のようにグローバルに変化する課題から地域の産業の再生や振興といった課題にも対処することが要求されるようになってきました。前者は各専門分野の分化、後者は専門分野の統合・総合化を示唆しています。

このような状況の下にある産業界や社会の要請により柔軟に対応できるよう、システム工学部では平成 27 年、これまでの 5 学科（情報通信システム学科、光メカトロニクス学科、精密物質学科、環境システム学科、デザイン情報学科）を 1 学科（システム工学科）へと改組を行いました。システム工学科には、10 教育研究領域（メジャー）を設定し、学生自らが将来を志向し、自らの興味や資質に見合った領域を主体的に選択することができます。具体的には、2つのメジャーを選択することによってコースを構成し、学科に相当する専門分野を学ぶことができます。これによりこれまでの学科の枠組みに固執することなく、広範かつ柔軟な専門性をもった応用力・適用力が養われることが期待されます。以下に、各メジャーの教育目的とともにいくつかのコースを示します。

- **メジャー：機械電子制御**

機械電子制御メジャーでは、幅広い視点から論理的思考をもって問題の解決にあたることのできる技術者をめざして、機械工学、応用数学などの素養を身につけた後、制御工学、ロボット工学などのシステム論を用いた設計、運用に関する専門技術について学びます。

- **メジャー：電子計測**

電子計測メジャーでは、人々の生活や産業を支える情報のセンシングや処理システムを創造できる技術者の育成をめざして、電気電子工学や光工学の基礎と、計測デバイスや計測情報処理などの要素技術、さらにこれらを統合した計測システムについて学びます。

- **メジャー：応用物理学**

応用物理学メジャーでは、物質におけるナノスケールの世界を探求し、新しい材料やデバイスの開発に対する社会のニーズに柔軟に対応できる能力を身につけられるように、物性物理学、材料科学、電子工学にわたる専門分野を学びます。

- **メジャー：化学**

化学メジャーでは、化学に関わる基本的法則を学んで物質に関する理解の基盤を作った後、ナノレベルの世界における化学現象や法則、原子・電子レベルでの相互作用の発現や、新たな機能性物質の設計・開発などの専門技術について学びます。

- **メジャー：知能情報学**

知能情報学メジャーでは、人間とコンピュータの新たな関係が再構築される時代において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、人工知能やロボット、視覚情報処理、コンピュータグラフィクスなどについて学びます。

- **メジャー：ネットワーク情報学**

ネットワーク情報学メジャーでは、インターネット上に構築される、新たな情報ネットワーク社会において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、モバイル通信やWebシステム、ビッグデータの解析などについて学びます。

- **メジャー：環境科学**

環境科学メジャーでは、環境を守り、育て、次世代に継承する人材の育成をめざして、環境破壊を未然に防ぐ、自然災害から命や暮らしを守る、地球温暖化に対応する、美しい風景を創造するなど、持続可能な社会の実現に貢献するための知識と技能を学びます。

- **メジャー：環境デザイン**

環境デザインメジャーでは、人と自然のよりよい関係を具現化できる人材の育成をめざして、自然から生活空間にいたる環境を一体として捉え、自然再生、防災緑化、自然エネルギーなど自然と調和する技術、景観保全やまちづくり、建築設計などの計画技術について学びます。

- **メジャー：メディアデザイン**

メディアデザインメジャーでは、メディアデザインと情報の双方の知識を持つ人材の育成をめざして、情報技術としてのサウンドやビジュアルのデザイン、人間工学に基づくインタフェースデザイン、さらにその基礎となるデザイン制作や企画方法について学びます。

- **メジャー：社会情報学**

社会情報学メジャーでは、人や社会を豊かにする情報システムを企画・設計する能力を身につけます。情報技術に支えられた社会の仕組みを知り、新しい情報システムの可能性を探求するために、ソフトウェア開発や高度なコミュニケーションについて学びます。

代表的なコースとそれを構成するメジャー、期待される就職先

| コース名 | メジャー名 | 期待される就職先 |
|--------------|--------------------|---|
| ロボティクス | 機械電子制御 電子計測 | 機械・電機、自動車、精密機械 |
| ナノテクノロジー | 応用物理学 化学 | 半導体・電子部品、精密機器、化学・医薬品・化粧品、素材 |
| コンピュータサイエンス | 知能情報学 ネットワーク情報学 | 情報・通信、IT サービス、電機 |
| デザインシステム | 社会情報学 メディアデザイン | 情報・通信、IT サービス、出版・印刷 |
| 環境システム | 環境デザイン 環境科学 | 公務員（土木、建築、造園）、建築・住宅、環境プラント |
| 環境化学 | 環境科学 化学 | 環境職公務員、環境測量士 |
| 電気電子工学 | 応用物理学 電子計測 | 電気電子メーカー、精密機械 |
| 知能機械システム | 機械電子制御 知能情報学 | 自動車、電機、精密機械、生産機械、医療機器、情報通信産業、ゲーム・アミューズメント |
| ネットワーク社会システム | ネットワーク情報学 社会情報学 | 情報通信、サービス産業、ゲーム・アミューズメント |

○システム工学部では、スーパーサイエンスティーチャープログラムを設けます。これはシステム工学部卒業後、本学教育学研究科に進学し高校の理科の教員免許の取得を目指すコースです。

4. 観光学部

21世紀は「観光の時代」。世界のあらゆる国や地域で最も有望な成長分野として注目されるのが観光です。日本においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造及び観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性、さらにはグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を有する観光人材の輩出がますます期待されています。和歌山大学観光学部は、観光教育研究における日本の、そしてアジアの拠点として、これらの人材養成に応えるべくさらに進化します。

観光学部の特色

- ① 観光学は人間の生活・文化に関わるあらゆる分野を総合した学問であることから、人文・社会科学から自然科学までの幅広い分野を融合的・横断的に学ぶことのできる充実したカリキュラムを用意しています。
- ② 最先端の観光理論を学ぶことはもちろん、教員と学生が自治体と連携して地域課題の解決に取り組むプログラムや海外の連携大学等と共同で取り組むエリアスタディ等の機会を通じて、社会の各方面から即戦力として期待される実践力が身につきます。
- ③ ハイレベルな観光人材に相応しい教養の醸成を重視し「観光プロデュース論」「日本文化演習」などユニークな実践科目を配置するほか、グローバル・プログラムの導入を通じて国際化時代における言語面でのバリアフリー化を進めます。

学生生活

(1) 入学料免除の制度

本学では、次の要件のいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考の上、入学料の全額又は半額を免除する制度があります。

- ① 入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合
- ② 入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合

(2) 入学料徴収猶予の制度

本学では、次の要件のいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考の上、平成 29 年 7 月末日（入学年度の 7 月末日が日曜日にあたる時は前々日まで、土曜日にあたる時は前日まで）を限度として入学料の納入を猶予する制度があります。

- ① 入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合
- ② 入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合
- ③ 経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合

(3) 授業料免除の制度

本学では、次の要件のいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考の上授業料の全額又は半額を免除する制度があります。

- ① 入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合
- ② 入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合
- ③ 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合

(4) 奨学金

① 日本学生支援機構の奨学金

(申込資格)

学業・人物とも優秀で、経済的理由により修業が困難である者。

(奨学生の決定)

本学が人物・健康・学力・家計の申込基準を満たしている奨学金申込者の中から選考の上、日本学生支援機構に推薦します。その後同機構で審査の上、採用を決定します。基準を満たしていても、予算の関係で採用されない場合があります。

(奨学金の種類)

< 第一種奨学金（無利子） >・・・貸与月額 自宅通学 30,000 円、45,000 円
から選択

自宅外通学 30,000 円、51,000 円
から選択

< 第二種奨学金（有利子） >・・・貸与月額 30,000 円、50,000 円、80,000 円
100,000 円、120,000 円から選択

(注) 貸与月額については、平成 28 年度実績であり変更されることがあります。

② 地方公共団体等の奨学金

日本学生支援機構の奨学金の他に、地方公共団体や各種団体等が扱っている育英奨学金制度があります。これらの募集は、ほとんどが4～5月に集中しており、学生センターの掲示板に随時掲示しています。この他に、大学に直接募集の無いものもありますので、各団体や出身の都道府県に各自問い合わせてください。

③ 家計急変奨学金

本学では、学資負担者の家計急変（失職、破産、倒産、病気、死亡若しくは地震・風水害の被害等）により修学を継続することが経済的に困難となった学生で、他の経済的支援が受けられない学生に対し、学費・生活費を援助することを目的とした奨学金制度があります。

貸与額：無利子貸与とし、一時金10万円、20万円、30万円より申請者が選択する。

返還期間：貸与された翌月から卒業後3年以内。

(5) 学生傷害保険等

① 学生教育研究災害傷害保険（学研災）

学研災は、日本国内外において、学生が正課中、学校行事中、通学中、大学施設内にいる間及び課外活動中等に不慮の事故にあい、傷害を受けたり、あるいはそれらが原因で後遺障害を負ったり、死亡した場合に、当該学生やその家族に保険金が支払われる全国的規模の補償制度です。

（注）本学が学生全員の学研災の保険料を負担し、一括加入していますので、個々に加入する必要はありません。

② 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）【任意加入】

学研賠は、学研災に加えて任意に加入できる保険で、日本国内外において、学生が正課中、学校行事中、課外活動中（注1）及びその往復等で、他人にけがを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより生ずる法律上の損害賠償を保証する制度です。

（注1）この保険での「課外活動」とは、大学の規則にのっとり所定の手続により、インターンシップ又はボランティア活動の実施を目的とした組織として承認を受けた学内学生団体が行うインターンシップ又はボランティア活動をいいます。これ以外のクラブ活動中の事故は保険金支払いの対象とはなりません。ただし、正課又は学校行事に合わせてその日のクラブ活動（大学が禁じているもの等は除きます。）に参加する場合、その住居と活動場所となる施設の間を合理的な経路及び方法により移動中に行った行為は対象となる活動に含みます。

③ 学研災付帯学生生活総合保険（学総）【任意加入】

学総は、学研災及び学研賠では補償が不足すると思われる場合に、学研災に加えて任意に加入できる保険で、学研災や学研賠では補償されない病気や日常生活でのケガ等についても補償されます。この保険に加入すれば、賠償責任を負った場合の補償を含んでいるため、学研賠に加入する必要はありません。

(6) 学生寮

本学には、次のとおり学生寮が設置されています。

| 区分 | 所在地 | 定員 | 1室定員 | 新入生入寮 可能人員 | 備考 |
|---------|---------------|-------|------|---------------|----------|
| 学生寮(男子) | 和歌山市栄谷 930 番地 | 120 人 | 1 人 | 約 30 人 | 鉄筋コンクリート |
| 学生寮(女子) | (大学構内) | 50 人 | 1 人 | 約 10 人 | 5 階建 |

寄宿料は、月額 4,300 円となっています。なお、寄宿料は、和歌山大学学生寮管理運営規則の改正により変更することがあります。

寄宿料以外に、寮生活に伴う電気代、ガス代、水道料等の負担があります。

(7) 下宿・アパート

市街地及び大学周辺のアパート・マンション等の斡旋は、和歌山大学消費生活協同組合（073-456-4155）で行っていますので、各自問い合わせてください。なお、平均的な物件の家賃は月額 35,000 円です。

(8) ノートパソコン等の情報端末の活用と準備について

本学では、受講登録（時間割の作成・登録）やレポート及び論文作成・提出、資料配布など多くの機会でもパソコンを利用しています。平成 29 年度より更なる学修環境の向上のため、個人所有のノートパソコン等の情報端末を授業でも活用する取組を予定しています。このための準備（購入等）が入学後に必要となります。

詳細につきましては、本学入試情報 Web サイトにて随時公開するとともに入学手続き時に改めて案内します。

(9) 学生生活に関する問合せ先

「ノートパソコン等の情報端末の活用と準備について」の問合せは、必ず指定の専用窓口電話番号に問い合わせてください。

(1) ~ (7) 窓口

| 問合せ事項 | 問合せ先 |
|---------------------|--------------------------------|
| 入学料免除、入学料徴収猶予、授業料免除 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7122 |
| 奨学金 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7128 |
| 学生傷害保険等 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7123 |
| 学生寮 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7132 |
| その他 | 学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7121 |

(8) 専用窓口

| 問合せ事項 | 問合せ先 |
|---------------------|--|
| ノートパソコン等の情報端末の活用と準備 | システム情報学センター（学術情報課） TEL 073-457-7177 |

〔確認方法〕

下記の表は、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験したことを確認するための表です。
出願書類として提出する必要はありません。

20～33ページの志望学部の「入学者選抜実施教科・科目等」を参照の上、志願者本人が、本人の責任において下表の確認欄に○をして確認をしてください。「入学者選抜実施教科・科目等」に記載の、科目数以外の注意事項も必ず確認してください。

各学部・学科等が指定する教科・科目を1つでも受験していない者は、出願することはできません。

教育学部（学校教育教員養成課程文科系）

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | 数学② | | | 理科① | | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | | |
|-------|----|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-------|----------|---------|----------------|-------|--------|------|------|------|------|----|-----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|--|
| 科目 | 国語 | 世界史A | 世界史B | 日本史A | 日本史B | 地理A | 地理B | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学I・数学A | 数学II・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | 物理基礎 | 化学基礎 | 生物基礎 | 地学基礎 | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | | |
| 指定科目数 | 1 | 2 | | | | | | | 1 | 1 | | | 理科①から2又は理科②から1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

教育学部（学校教育教員養成課程理科系）

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | 数学② | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-------|----------|---------|----------|-------|--------|--|-----|--|--|----|----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|--|
| 科目 | 国語 | 世界史A | 世界史B | 日本史A | 日本史B | 地理A | 地理B | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学I・数学A | 数学II・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | | | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | | |
| 指定科目数 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

教育学部（学校教育教員養成課程実技系「音楽又は美術」、「保健体育」）

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | 数学② | | | 理科① | | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | | |
|-------|----|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-------|----------|---------|--------------------------------|-------|--------|------|------|------|------|----|-----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|--|
| 科目 | 国語 | 世界史A | 世界史B | 日本史A | 日本史B | 地理A | 地理B | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学I・数学A | 数学II・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | 物理基礎 | 化学基礎 | 生物基礎 | 地学基礎 | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | | |
| 指定科目数 | 1 | 2又は1 | | | | | | | 1 | 1 | | | 理科①から2又は理科②から1 又は 理科②から2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

前期日程

経済学部

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | | 数学② | | | 理科① | | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | | | | |
|-------|----|------|--|------|--|------|--|------|-----|-------|----------|-----|---------|----------------|----------|-------|--------|------|------|------|------|-----|----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|--|--|
| 科目 | 国語 | 世界史B | | 日本史B | | 地理B | | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学I | 数学I・数学A | 数学II | 数学II・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | 物理基礎 | 化学基礎 | 生物基礎 | 地学基礎 | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | | | |
| 指定科目数 | 1 | 1又は2 | | | | 0又は1 | | | 1 | | 1 | | | 理科①から2又は理科②から1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

システム工学部

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | | 数学② | | | | | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-------|----------|-----|---------|------|----------|-------|--------|-----|--|--|--|-----|--|--|--|----|----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|--|--|
| 科目 | 国語 | 世界史A | 世界史B | 日本史A | 日本史B | 地理A | 地理B | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学I | 数学I・数学A | 数学II | 数学II・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | | | | | | | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | | | |
| 指定科目数 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

観光学部

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | | 数学② | | | 理科① | | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | | | | |
|-------|----|------|--|------|--|------|--|------|-----|-------|----------|-----|---------|----------------|----------|-------|--------|------|------|------|------|-----|----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|--|--|
| 科目 | 国語 | 世界史B | | 日本史B | | 地理B | | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学I | 数学I・数学A | 数学II | 数学II・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | 物理基礎 | 化学基礎 | 生物基礎 | 地学基礎 | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | | | |
| 指定科目数 | 1 | 1又は2 | | | | 0又は1 | | | 1 | | 1 | | | 理科①から2又は理科②から1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

〔確認方法〕

下記の表は、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験したことを確認するための表です。
出願書類として提出する必要はありません。

20～33ページの志望学部「入学者選抜実施教科・科目等」を参照の上、志願者本人が、本人の責任において下表の確認欄に○をして確認をしてください。「入学者選抜実施教科・科目等」に記載の、科目数以外の注意事項も必ず確認してください。

各学部・学科等が指定する教科・科目を1つでも受験していない者は、出願することはできません。

教育学部（学校教育教員養成課程文科系）

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | 数学② | | | 理科① | | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | |
|-------|----|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-------|----------|---------|----------------|-------|--------|------|------|------|------|----|-----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|
| 科目 | 国語 | 世界史A | 世界史B | 日本史A | 日本史B | 地理A | 地理B | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学Ⅰ・数学A | 数学Ⅱ・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | 物理基礎 | 化学基礎 | 生物基礎 | 地学基礎 | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | |
| 指定科目数 | 1 | 2 | | | | | | | 1 | 1 | | | 理科①から2又は理科②から1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

教育学部（学校教育教員養成課程理科系）

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | 数学② | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-------|----------|---------|---------|-------|--------|--|-----|--|--|----|----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|
| 科目 | 国語 | 世界史A | 世界史B | 日本史A | 日本史B | 地理A | 地理B | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学Ⅰ・数学A | 数学Ⅱ・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | | | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | |
| 指定科目数 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

経済学部

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | 数学② | | | 理科① | | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | |
|-------|----|-------------------------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-------|----------|-----|----------------|-------|--------|------|------|------|------|----|-----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|
| 科目 | 国語 | 世界史A | 世界史B | 日本史A | 日本史B | 地理A | 地理B | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学Ⅰ | 数学Ⅱ | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | 物理基礎 | 化学基礎 | 生物基礎 | 地学基礎 | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | |
| 指定科目数 | 1 | 1又は2 | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | 理科①から2又は理科②から1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | | 2（ただし、理科①で2科目を選択した場合は3） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

後期日程

システム工学部

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | | 数学② | | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-------|----------|-----|---------|------|----------|-------|--------|--|-----|--|--|----|----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|--|--|--|--|
| 科目 | 国語 | 世界史A | 世界史B | 日本史A | 日本史B | 地理A | 地理B | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学I | 数学I・数学A | 数学II | 数学II・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | | | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | | | | | |
| 指定科目数 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

観光学部

| 教科 | 国語 | 地理歴史 | | | | 公民 | | | 数学① | | 数学② | | | | 理科① | | | | 理科② | | | | 外国語 | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------------------------|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-------|----------|-----|---------|------|----------------|-------|--------|------|------|------|------|----|-----|----|----|----|------|-------|-----|-----|--|--|--|--|--|
| 科目 | 国語 | 世界史A | 世界史B | 日本史A | 日本史B | 地理A | 地理B | 現代社会 | 倫理 | 政治・経済 | 倫理、政治・経済 | 数学I | 数学I・数学A | 数学II | 数学II・数学B | 簿記・会計 | 情報関係基礎 | 物理基礎 | 化学基礎 | 生物基礎 | 地学基礎 | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | 英語 | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | 韓国語 | | | | | |
| 指定科目数 | 1 | 1又は2 | | | | | | | 1 | | 1 | | | | 理科①から2又は理科②から1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 (ただし、理科①で2科目を選択した場合は3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 確認欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

入学願書等記入上の注意

入学願書等記入上の注意

様式は、**前期日程用の所定様式（青色）**

後期日程用の所定様式（黄色）

の二種類があります。

出願する試験日程用の様式を使用してください。大学入試センター試験成績請求票は、出願する試験日程の様式の所定欄に貼付してください。

1. 入学願書等の記入は、この学生募集要項を熟読し、各事項に留意し「(記入例)」を参照の上、白抜きの枠内のみ記入してください。
2. 黒のボールペン（摩擦等の温度変化で筆跡が透明化するペンは使用不可）を用い、文字は楷書で数字は算用数字で丁寧に記入してください。
3. 志望学部・学科等の個別学力検査等科目は、出願後の変更は認めませんので誤りのないようご注意ください。
4. 入学願書・電算処理票・受験票・写真票は切り離さないでください。
5. 誤って記入した場合は、誤記部分を二本線で抹消し、その上に訂正印を押印し、余白部分に訂正してください。修正液、修正テープ類の使用や紙面の削り取り等はしないでください。

入学願書

○「出願する学部」欄

(記入例)

| |
|----------|
| 出願する学部 |
| 教育 学部 |

「教育」「経済」「システム工」「観光」のいずれかを記入してください。

○「氏名、性別、生年月日」欄

(記入例)

| | | |
|------|---|------------------------------------|
| フリガナ | ワダイ タロウ | <input checked="" type="radio"/> 男 |
| 氏名 | 和大 太郎 | <input type="radio"/> 女 |
| 生年月日 | 昭和・平成 <input checked="" type="radio"/> 10 年 5 月 1 日 | |

氏名・フリガナを記入してください。但し、合格通知書の印字は大学入試センターより提供される漢字・フリガナを使用します。

性別は「男」「女」のいずれかを○で囲んでください。

生年月日は、元号を○で囲み、記入してください。

○「出願資格」欄

(記入例)

| | | | | | | |
|-------------------------|---|---------------------------------------|------------------------|---------------------------------------|----------|---------------------------------------|
| 出願資格 見込者) | 出身学校 所在都道府県 | 和歌山 都府県 | 出身学校名 | 国立 公立 私立 | 和歌山 大 | 高等学校 中等教育学校 |
| | 出願資格「1」 高等学校若しくは中等 教育学校卒業者(卒業 見込者) | 昭和 平成 | 29年3月 | 卒業・卒業見込みの別 (白枠のいずれかに○ をしてください。) | 卒業 | 卒業見込み |
| 出願資格 上記以外 (見込み含む) | 出願資格「2」 | 「2」高専3年次 | 「3-②」在外教育施設 | | | 「3-⑤」 高等学校卒業程度認定試験 (大学入学資格検定含む) |
| | 「4」 | 「2」特別支援学校 | 「3-③」専修学校高等課程 | | | 「4」個別の入学資格審査 |
| | | 「3-①」外国における12年 の課程(これに準ずる者を含 む) | 「3-④」文部科学大臣の指 定したもの | | | |

出願資格「1」:「高等学校若しくは中等教育学校卒業者(卒業見込者)」に該当する者

1. 出身学校所在都道府県名を記入し、都道府県のいずれかを○で囲んでください。
2. 出身学校名欄の国立・公立・私立のいずれかに○をし、出身学校名を記入してください。また、高等学校・中等教育学校のいずれかに○をしてください。
3. 昭和・平成のいずれかに○をし、卒業又は卒業見込年月を記入してください。
4. 卒業・卒業見込みの別を、該当する欄の白枠に○をしてください。

出願資格「2」～「4」上記以外(見込み含む)に該当する者

該当する出願資格を本要項で確認し白枠に○をしてください。

○「連絡先」「追加合格連絡先」欄

(記入例)

| | | | | | |
|---------|--------------|-------------------------------|------------------|--------|-------------------|
| 連絡先 | 〒 640 - 8510 | 電話番号 | 073 (457) 7116 | 携帯電話番号 | 090 (1111) 1111 |
| | (住所) | 和歌山県和歌山市栄谷 930 オレンジコーポ 101 号室 | | | |
| 追加合格連絡先 | 〒 - | 電話番号 | () | 携帯電話番号 | () |
| | (住所) | 同 上 | | | |

1. アパート、マンション等名及び棟・室番等まで記入してください。
2. 出願書類に不備があった場合に、迅速な対応が必要となるため、携帯電話番号も記入してください。
3. 連絡先と追加合格連絡先が同じである場合は、追加合格連絡先住所欄に「同上」と記入してください。
4. 出願後に、住所・電話番号等を変更した場合は、直ちに和歌山大学入試課まで**簡易書留速達郵便**で届け出てください。

○「入学検定料」欄

入学検定料

金融機関での納入の場合は「C票 振込金
受付証明書」を、コンビニエンスストアでの納入
の場合は「収納証明書」をこちらに貼付してくだ
さい。

金融機関での納入の場合は「C票 振込金受付証明書」を、コンビニエンスストアでの納入の場合は「収納証明書」をこちらに貼付してください。

電算処理票

○ 「平成 29 センター試験成績請求票貼付」枠（大学入試センター試験 受験案内 参照）

| | |
|----------|--|
| 前 | 平成 29 センター試験 成績請求票 国 公 立 前 期 日 程 用 |
| 貼 | 付 欄 |

| | |
|----------|--|
| 後 | 平成 29 センター試験 成績請求票 国 公 立 後 期 日 程 用 |
| 貼 | 付 欄 |

糊で剥がれないように枠内に貼付してください。

1. 「前期日程」に出願する場合は、「前 国公立前期日程用」を使用してください。
2. 「後期日程」に出願する場合は、「後 国公立後期日程用」を使用してください。
3. 大学入試センター試験成績請求票の再発行を受けた場合は、再発行後の成績請求票を貼付してください。

(注) 成績請求票を貼付していない場合及び指定のものと異なる成績請求票を貼付している場合は無効となります。注意してください。

○前期日程「志望する学部」コード欄

志望する学部のコードを○で囲んでください。

○前期日程「志望する課程・系」コード欄、「志望する課程・系・専攻」コード欄、「学科」コード欄

「志望する学部」コード欄で教育学部の「1」を選択した者のみ、記入が必要です。

教育学部志望者については、「文科系」又は「理科系」、「実技系」、「実技系」志望者は「音楽又は美術」又は「保健体育」の4種類のいずれかのコードを○で囲んでください。
なお、経済学部、システム工学部、観光学部は、「学科」コード欄に○をする必要はありません。

○前期日程「個別学力検査等科目」コード欄

20～33ページの各学部の「入学者選抜実施教科・科目等」を参照し、個別学力検査等で受験する教科・科目のコードを○で囲んでください。但し、システム工学部を除きます。

○後期日程「志望する課程・系」チェック欄、「学科」チェック欄

教育学部志望者は、「学校教育教員養成課程 文科系」又は「学校教育教員養成課程 理科系」のいずれかのチェック欄に○をしてください。
経済学部、システム工学部、観光学部志望者は、各学科のチェック欄に○をしてください。

○「受験票」、「写真票」

1. 氏名を記入し、性別の男・女のいずれかに○をしてください。
2. 志望する学部には「教育」「経済」「システム工」「観光」のいずれかを記入してください。
3. **前期日程教育学部志望者**は「志望する課程・系・専攻」欄に、

「学校教育教員養成課程文科系」

「学校教育教員養成課程理科系」

「学校教育教員養成課程実技系音楽」

「学校教育教員養成課程実技系美術」

「学校教育教員養成課程実技系保健体育」

のいずれかを記入してください。

後期日程教育学部志望者は「志望する課程・系」欄に、

「学校教育教員養成課程文科系」

「学校教育教員養成課程理科系」

のいずれかを記入してください。

前期日程「志望する課程・系・専攻」欄及び後期日程「志望する課程・系」欄は、経済学部・システム工学部・観光学部志望者は記入する必要はありません。